

國法論

第九冊

館書圖京東	
函 四 -	門 新
架 二	部 - -
號 200 七	類

55  
80  
十一本

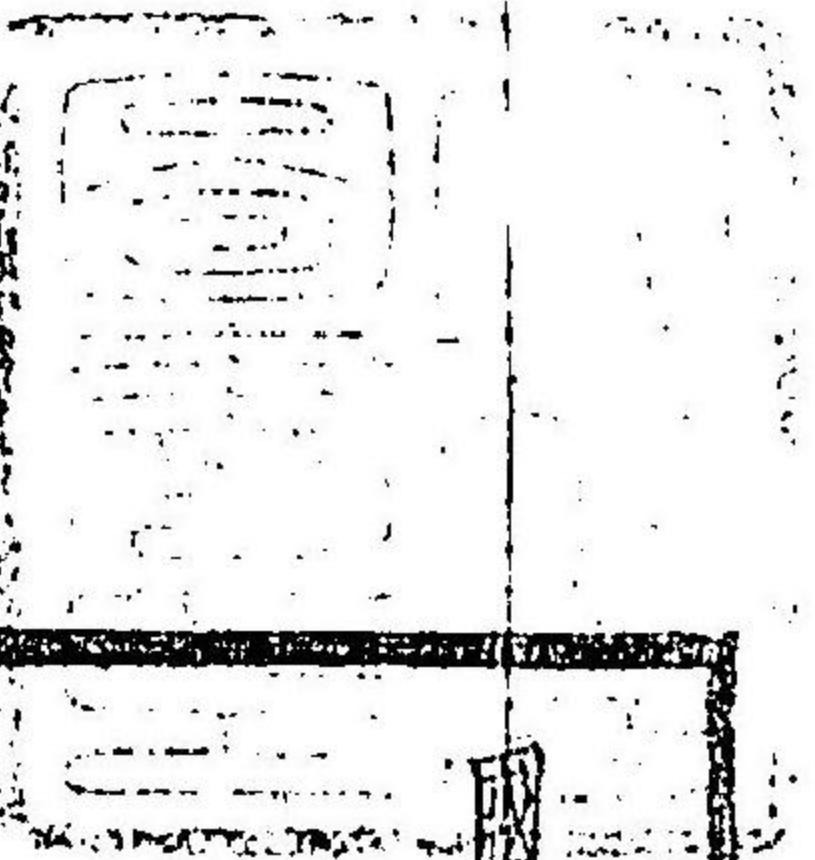


明治七年刊行

イカ、グ、ル、ン、チ、リ、著  
從五位加藤弘之譯

# 國法汎論

文部省



國法汎論卷之九 中目錄

下帙第九册

第五款

第三 國家ト教會トノ關涉

第六款 方今國家ノ教會ニ相對シテ有ス

ル權利

第七款 監督ノ權利

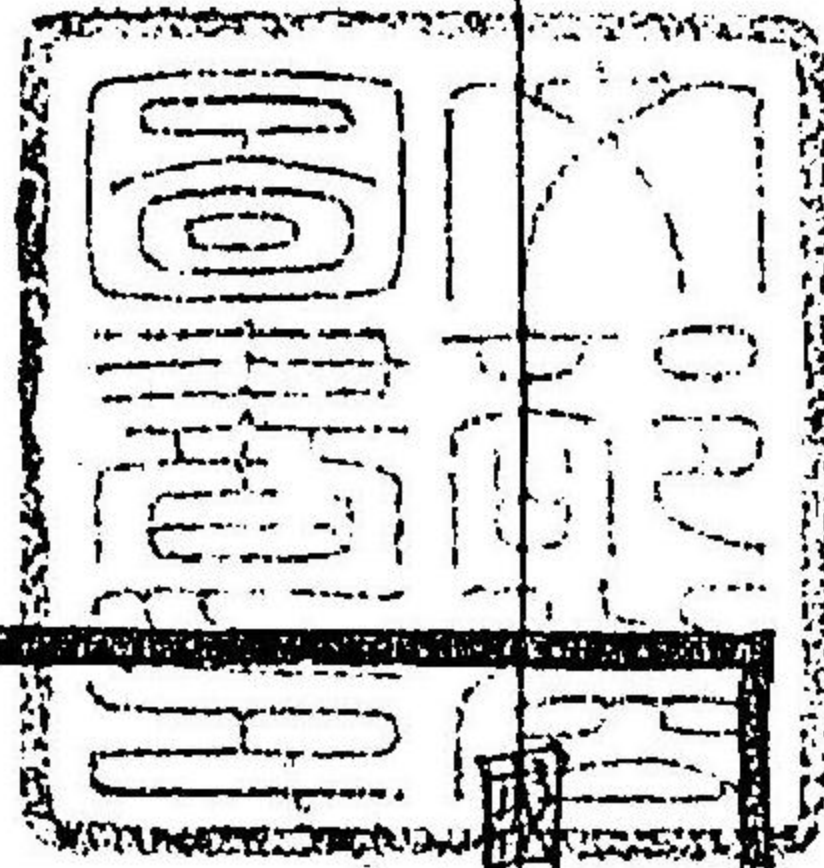


明治七年刊行

イカ、ブル、チリ著  
從五位加藤弘之譯

# 國法汎論

文部省



國法汎論卷之九 中目錄

下帙第九冊

第五款

第三 國家ト教會トノ關涉

第六款 方今國家ノ教會ニ相對シテ有ス  
ル權利

第七款 監督ノ權利



法汎論卷之九中

瑞士 イ、カ、ブルン 著

加藤 弘 之 譯

第五款

第三

國家ト教會トノ關係ニハ、  
ハルヘルト

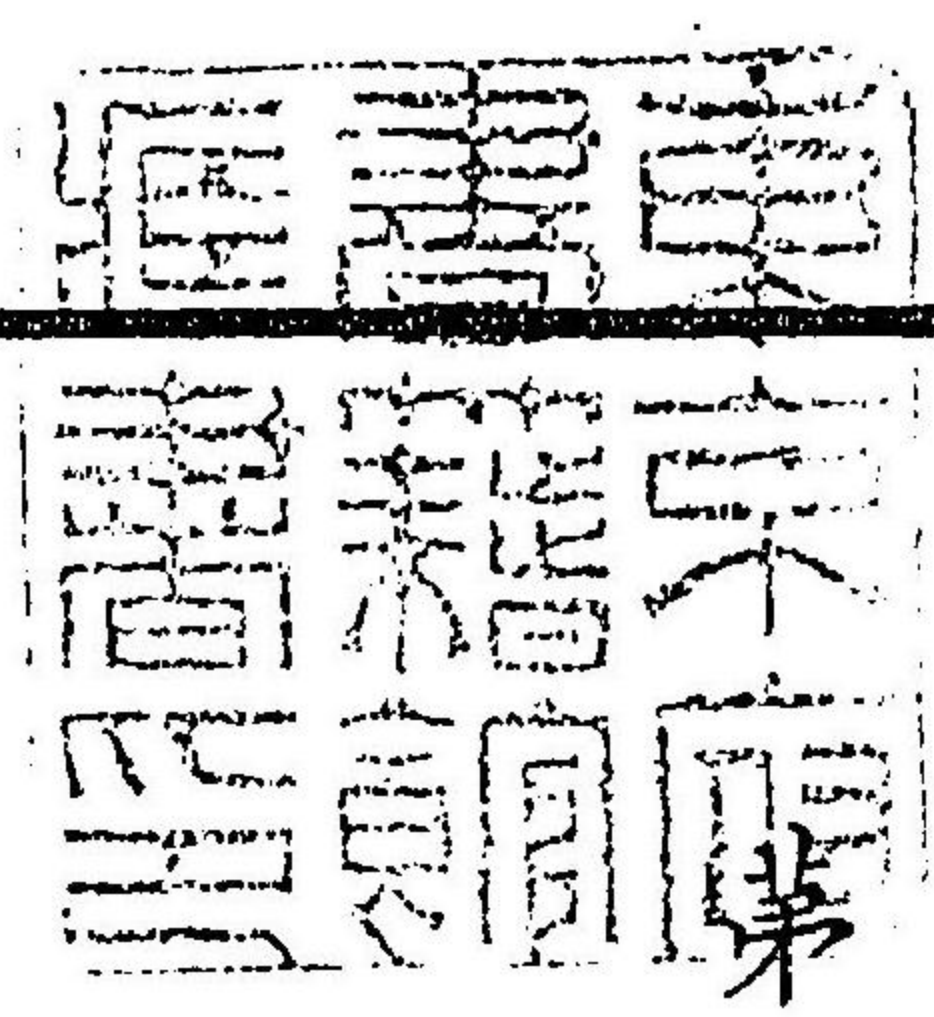
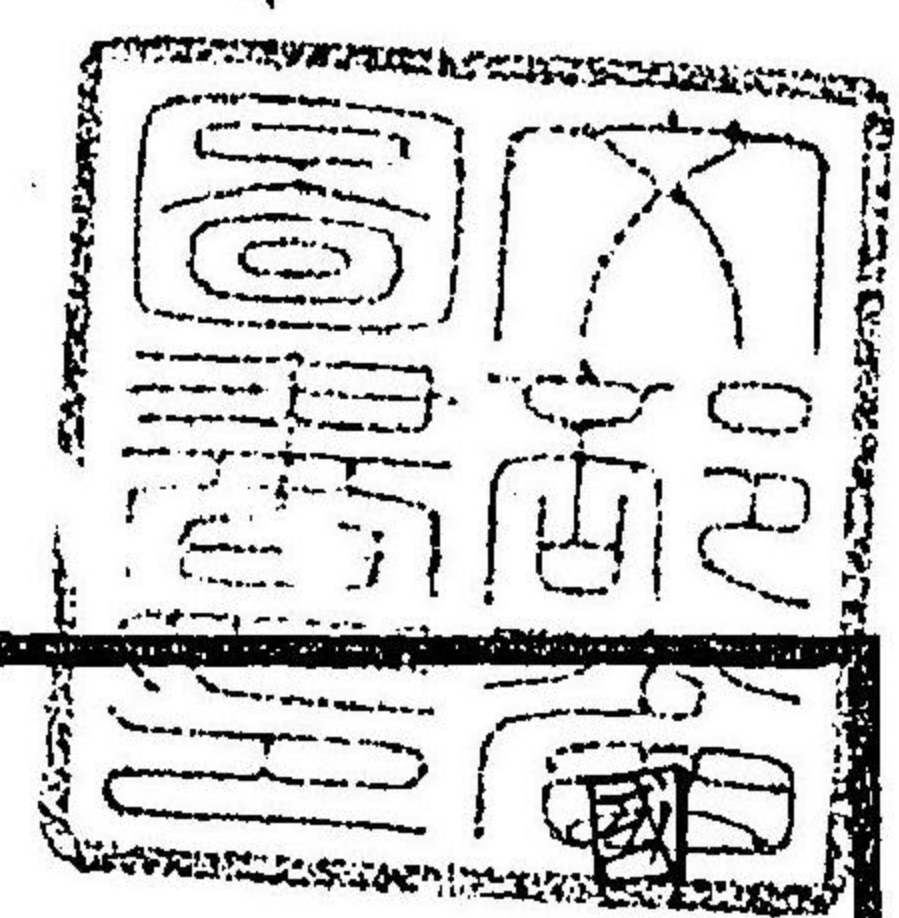
イタルキルヘ、

國家ト教會トヲ以テ相分別シ、全ク獨立シタル

二個ノ會社トナシ、  
トスルハ、凡、基督教

ヲ奉セル各國ノ通制ナリ、唯二三ノ國ニ於テ、民

情偶安全ヲ失ヒ、暴動ヲ生セシ時ニ方リ、或ハ政





教ヲ二途トナスノ真理ヲ却テ非ナリト為セシ  
 一アリ、其他ハ獨、神道ニ惑溺セル信者、若クハ空  
 理ニ心醉セル學者ニアラサレハ、決シテ此真理  
 ヲ以テ非トスル者ナシ、實ニ方今開化ノ大ニ進  
 歩セシト、自由權ノ隆盛ナルトヲ得シハ、殊ニ此  
 真理ノ實地ニ行ハレシニ由ルナリ、  
 然ルニ國家ト教會トノ關涉ヲ定ムル制度ノ如  
 キハ、古今各國皆相異ニシテ、今時ト雖モ未ダ全ク  
 一定スルニ至ラス、依テ古今ノ沿革ニ從テ生シ  
 タル、諸制度ノ顯著ナル者ヲ左ニ舉ク、

〔第一〕基督教漸、歐洲ニ行ハル、ニ至リシ頃ニハ、

頻ニ驅逐ニ遇ヒ、羈縛ニ困ミシカ、其後羅馬希臘

帝國〔按〕即チ東羅馬、一称ビツニ於テ始テ國家ノ准

許ヲ得テ遂ニ國教トナリタリ、去レ此國ノ如キ

モ、猶未太古ノ陋見ヲ脱セサリシカ故ニ、神道ヲ

以テ國事ノ一端トシ、而レテ國家必ズ政務ト共ニ

神道ヲモ制馭スルノ全權ヲ握レリ、故ニ國家ノ

專權ヲ掌レル帝ハ、必ズ其大權ヲ教會上ニ施行シ

タリキ、○帝ハ教會ヲ保護シテ之ヲ盛大ニナス

カ為、緊要ナル憲法ヲ制定シ、教會ノ遵守スヘキ



大憲及教育ノ方法ヲ設定シ又ハ教道ノ箴規ヲ  
 撰ヒ且、異端ニ陷ル者ヲ處置シ或ハ之ヲ懲罰ス  
 ルノ規律ヲ定ムル等ノ權ヲ掌握シ加之帝自ラ  
 代理者ヲ命シテ此會議ヲ管理定決セシメ以テ  
 真實ノ法ヲ設定スルノ權ヲ握レリ是故ニ帝ハ  
 帝ニ國家ノ元首タルノミナラス兼テ教會ノ主  
 長タリキ、  
 帝教會ノ主長タリシト雖是唯其外部上ニ關ス  
 ルノミナリキ、  
〔按〕教會ヲ制取スルノ權ニシテ、  
 教道教旨ヲ管督制取スルノ權

ハ絶エテアラ帝固ヨリ基督教ノ門徒ナルカ故  
 サリニ其教道ヲ以テ自己ノ權勢ヨリ出ル者ト為ス  
 能ハス、必、基督ノ高尊ナル權勢ヨリ出ル者トシ  
 テ認メサルヲ得ス、故ニ帝モ亦聖徒〔按〕アポステル、  
 基督ノ徒  
 弟ヲノ道統ヲ承繼セルビ〔按〕ビ以テ、基督教ノ  
 教頭ト認識シテ之ヲ尊敬セサル可ラサルノ法  
 ナリ、但、帝ノビ〔按〕ビフヲ尊敬スルヤ、帝自カラビ〔按〕ビ  
 フノ教道ヲ好セシカ故ニアラス、唯帝ビ〔按〕ビフヲ  
 以テ真實ノ基督教徒ト認識セシカ故ナリ、○基  
 督教驅逐ニ遇ヒレ頃ヨリ、既ニ教會ノ為ニ別種



ノ職官ヲ立ルノ基開ケタリ、而テ此職官ハ國家ノ職官トハ全ク相離レタル者ナリキ、  
 初クレルスニ 〔按〕 教徒ノ身分ト云フ義、ノ身分立チ  
 シカ、此身分ハ國家官吏ノ如ク、其職掌ヲ帝ヨリ  
 受領スル者ニハアラサリキ、而テ此身分凡、精神  
 靈魂ニ係レル事ニ就テハ、全ク國家ノ制取ヲ受  
 ケス、唯自ラ信從スル所ノ基督ヲ主長トシテ其  
 旨意ニ恭順セシカ如ク、外面ニ顯ハル、事業ニ  
 就テモ、亦國家元首ノ制取ヲ脱シテ、別ニ國家ニ  
 從屬セサル一會社トナラシメテ企望セリ、當時

シノリ、〔按〕 議院ナリ、會ノ制度ヲ立テシハ、即チクレ  
 ルス國家ニ從屬セサル一會社トナラシメカ為ニ  
 スル所以ナリ、去レ凡衆相會スルコトハ甚、稀ナリキ、  
 ○聖徒ノ代者タルパトリアルク、〔按〕 希臘加特力  
 教ノ大教長、  
 及聖徒ペトルスノ繼道者ナルビシ、〔按〕 基督教行  
 ハル、各國ノ首府トスル羅馬ニ於テ、帝宮ヨリ  
 遠隔セル宮殿ニ居住セシビ、〔按〕 教會ノ父ト云  
 ヘル尊蹄ヲ得テ其主長トナリ、而テ帝ト相對セ  
 ル高位ニ在リテ、教會ノ獨立自主ヲ保護スルヲ  
 以テ自ラ任シタリキ、



是ニ於テ政治法制ノ為ニ結ヘル會社〔按〕即チ國及及  
 教道ノ為ニ結ヘル會社〔按〕即チ教ナル二個ノ會社  
 並立テ各存在ノ理、職官ノ制、及業務ノ方法等ヲ  
 異ニシ、以テ互ニ獨立自主ノ權ヲ掌握セリ、○但  
 此二個ノ會社唯外部上ニ於テノミ、相共ニ基督  
 教ノ信者ナル帝ヲ主長トシテ其管下ニ屬シタ  
 リ、是故ニ外部上ニ於テハ、國家其權ヲ以テ教會  
 ヲ制馭シ、而テ之ヲ國家ノ教會トナシタリ、去レ  
 國家ハ遂ニ衰運ニ赴キシカ故ニ、外貌ニ於テハ  
 頗大權ヲ握ルカ如クナリシカニ、其實ハ全ク孱

弱トナレリ、然ルニ教會ハ猶強壯ニシテ其氣力  
 甚盛ナリシカ故ニ、外部上ニ於テハ國家ノ管下  
 ニ屬セシカニ、教道ニ係レル實權ニ至リテハ、遠  
 ク國家ノ右ニ出テタリ、是ヲ以テ自ラ能ク其獨立  
 自主ヲ保護スルヲ得タリ、  
 此ノ如ク國家ノ元首兼テ教會ノ主長トナルノ  
 制度、今時猶行ハル、國アリ、方今俄羅斯帝ノ如  
 キハ、ビザンツ國〔按〕前ニ羅馬希臘國ト云フ者ノ  
 是ナリ、又一ニ東羅馬ト稱ス、ノ  
 如ク兼テ其國教會〔按〕我羅斯ノ國教會ハ、ノ主長  
 希臘加特カ教會ナリ、ノ主長  
 ナリ、但俄羅斯國ハ頗強壯ニシテ、猶次第ニ隆盛



ニ赴クノ勢ヒアルカ故ニ、帝自ラ強大ノ威カヲ以テ教會ノ權ヲ施行スルヲ、遙カニビツァンツ國ニ優レリ、

英國ノ如キモハインリヒ顯理第八世生、五百零九年ニ即

位ニ、其四十年、在位ノ時ニ於テハ、國君エンダリシ、

七年ニ殂ス、按英國波羅特士ノ主長トナリテ、全ク教

會ヲ制馭スルノ權ヲ握ルヲ、宛羅馬教皇ニ異ナ

ラサリキ、去レ氏此ノ如キ強權ハ僅ニ一時ニシテ

廢滅シ、其後ニ至リテハ國君唯教會ヲ管スルニ

過キサルヲトナレリ、

甲ノ制度按峨羅斯ノ如ク國君強大ノ威カヲ以テ、教會ノ權ヲ施行スルノ制度ヲ云、

ハ、方今ノ世論ニ合セサルヲ勿論ナリト雖、或ハ

之ヲ良制トナス者ナキニアラス、去レ氏條理及實

際上ニ於テ併ニ大弊害アルヲ、敢テ辨ヲ俟タス

シテ明カナリ、凡ノ國家ト教會トハ、各自ニ内外

ニ權ヲ有スヘキヲ、固ヨリ當然ナリ、故ニ必各相

分テ獨立自主ノ者ト為スヘキヲ亦當然ナルニ、

全ク此理ニ背キ、獨ノ國家ノ一君主、此ニ會社ヲ統

治スルキハ、其景狀宛一頭ニ身ノ不具人ニ相似

タリ、○國家ノ元首ハ素唯國家ノ政令ヲ掌ルノ



主務アリテ、且、唯能ク此職掌ヲ負擔スルニ堪フ  
 ヘキ者ナルニ、又兼テ教會ヲ制馭セント欲スル  
 ハ、是即元首其當然ノ權域ヲ超ユル者ト云フヘ  
 キノミナラス、決シテ此兩會社ヲ統治スルニ堪  
 ヘサルヤ必然ナリ、  
 此ノ如ク獨リ國家ノ元首、國家及教會ノ二會社ヲ  
 統治スルノ權ヲ掌握スルノ制タルヤ、或ハ君主  
 擅制スデムス、ポチノ政ニ起リ、或ハ却テ此政ノ原因  
 トナル者ナリ、凡、各種ノ自由權ヲ壓抑シ、及世道  
 ノ開明上進ヲ障碍スルヲ、獨リ此政ヨリ甚シキハ

ナシ、○兆民及一個人、若、國家ノ為ニ苛虐セラレ  
 、トアルキハ、則、惠憐ヲ教會ニ乞ヒ、或ハ教會ノ  
 為ニ驅逐セラレ、トアルキハ、則、保護ヲ國家ニ  
 求ムヘキト當然ナリ、然ルニ兆民及一個人斯ル  
 望ヲ失フニ至ルキハ、遂ニ自己ノ災害ヲ免カル  
 、ニ道ナシ、國家若、兆民及一個人ヲ奴視シテ、自  
 己ノ威權ヲ弄スルトアルキハ、則、教會ハ神道ヲ  
 以テ兆民及一個人ノ靈魂ヲ救育シ、又教會若、兆  
 民及一個人ノ知識ヲ壓屈セント欲スルトアレ  
 ハ、則、國家其權ヲ以テ此災害ヲ脱免セシムルハ



共ニ甚緊要ノヲナリ、○方今西洋各國ノ文明開  
 化、遙ニ東洋諸州ニ卓越スルヲ得タルハ、其原因  
 一ナラスト雖、西洋各國夙ニ國家ト教會トヲ相  
 分テ、二個ノ獨立會社トナセシ大事業ヲ以テ、殊  
 ニ其尤ナル者ト云フヘク、又東洋諸州ニ於テ、今  
 時猶擅制ノ政ヲ存スルヲ得ル所以ノ理亦一ナ  
 ラスト雖、一君常ニ政教ノ二權ヲ統一スルノ制  
 ヲ以テ、殊ニ其尤ナル者ト云フ可シ、蓋馬哈默各  
 國按土耳其及  
其近鄰ヲ云ノ遠ク基督各國按歐洲各  
國ヲ云ニ企テ  
 及ハサルヤ、職トシテ之ニ是由ルナリ、

〔第二〕中古佛朗哥國隆盛ナル時代ノ如キハ、太古

羅馬希臘國ノ制度ヲ承繼シテ、更ニ中古ノ新制

度ヲ創始セシ時ナレハ、殊ニ當時預定セル巴力

門ノ制度ノ如キハ、數百年ノ後ニ至リテ始テ實

際ニ用ヒラレタリ、國家ト教會トヲ全ク相分別

スルノ制度、未嘗テ全カラサリシカニ、其後ニ至

リテハ、此二會社相離シ、全ク獨立自主ノ者トナ

リ、各個ノ主長之ヲ統治シ、而テ各會社其權ヲ基

督教ノ行ハル、全土ニ施サント欲スル志ヲ抱

ケリ、乃國家ニ主タル者ハ帝按即獨  
帝ナリニシテ、教



會ニ主タル者ハ教皇ナリキ、<sup>①</sup>

①〔按〕風ニ國家ト教會ト相分レテ、獨立自主ノ者トナリシ<sup>①</sup>、前〔第一〕ニ論スルカ如シト雖<sup>モ</sup>、其初<sup>ニ</sup>在リテハ、國家ノ元首タル帝、猶外部上ニ於テ教會ヲ兼管スルノ制アリシカ、其後ニ至リテハ、國家教會ノ二會社、各主長ヲ異ニシテ、真ニ二個ノ獨立會社トナリシナリ、

國家及教會ノ二會社全ク相分レテ、實ニ獨立自主ノ者トナルヲ非トスルノ論ハ、當時全ク廢絶

シタリキ、從來帝ハ教會ヲ以テ國家ニ從屬シテ、其指令ヲ仰クヘキ者トナシ、教皇モ亦國家ヲ以テ教會ノ管下ニ屬ス可キ者トナシテ、互ニ輕蔑スルノ風習アリシカ<sup>②</sup>、當時既ニ此弊全ク消滅シタリキ、○天神二個ノ劍ヲ二貢ノ主長ニ賜ヒ、以テ二個ノ大權ノ標記トナセリ、一ハ國權ノ標記トシテ帝ニ賜ヒ、一ハ教權ノ標記トシテ教皇ニ賜ヘリ、ト云フノ說ハ、曾<sup>テ</sup>ギバルリ子<sup>ニ</sup>〔按〕帝ニ<sup>レ</sup>及<sup>ヒ</sup>ギユエル<sup>レ</sup>シト〔按〕帝ノ仇敵カ俱ニ信スル所ナ

リキ、卷之一第四款ヲ恭看スヘシ、



國家及教會ノ二會社相密接シ、且時アリテハ全ク相混和シ、而テ二會社相共合シテ各國ヲ統治シタリ、是故ニ國家ノ法院、公衆ノ平和ヲ損害セサル民人ヲ罰シテ其權利ヲ奪ヒ、決シテ赦宥セサル片ハ、教會亦キルヘンバシ〔按〕教會施ス所ノ刑罰ヲ云、又教罰ト譯ス、ヲ以テ、此者ヲ門徒ヨリ放逐スルヲ常法トナセリ、故ニ國家ニ於テ權利ヲ失フ者ハ、天上ノ安樂ヲ受ルノ望ヲモ共ニ失フニ至レリ、○又教會教道ヲ信セサル門徒ヲ、教會ヨリ放逐シ、決シテ赦宥セサル片ハ、國家亦之ヲ罰スルノ法アリキ、

故ニ教會ニ於テ天上ノ罰ヲ受ケタル者ハ、必ス國家ニ於テ地上ノ罰ヲモ免カル、一能ハサリキ、○國家教會此ノ如ク相結テ施行セル權力ハ、實ニ恐怖ニ可クレテ、決シテ限量アラサル可ク見エタリキ、何者生キテハ地上ノ刑ヲ免カル、能ハス、死シテハ天上ノ罰ヲ免カル、能ハサリケレハナリ、然ルニ其後ニ至リ、教國二權〔按〕教會ノ權ト國ノ權ト云、關係ニ就テ大争鬭起レリ、蓋帝ノ權力ハ、元來教會ノ權力ニ超過セシカ氏、帝ハ自ラ此強大ナル



權カヲ減縮シテ、教會ノ權カト平均センコトヲ嫌  
 ハサリシニ、教皇ハ却テ自己ノ權カヲ擴張シテ、  
 帝ノ權カヲ壓抑セント欲セシカ故ニ、遂ニ争鬪  
 フ生スルニ至リタリ、○中古ニ於テハ、羅馬教會  
 實ニ基督教ヲ奉スル西方各國ヲ統管スルヲ得  
 シカ故ニ、其威力大ニ日耳曼帝國ノ威力ニ超過  
 セリ、然ルニ帝ハ其位爵各國ノ王公侯伯ニ超ユ  
 ルト雖、其實權ニ至リテハ、決シテ西方各國ヲ統  
 治スルニ足ラサルヲ以テ、各國皆獨立不羈ニシ  
 テ、殆帝ノ制馭ヲ受ルコトナカリキ、○教會ハ帝ニ

神道ニ係レル權ヲ掌握スルノミニ止マラス、猶  
 且、學問ヲ勸メ、及古方ノ教育ヲ施ス全權ヲ掌握  
 レタリ、而テ當時專ラ國家ノ用ヲ為シ、及國家ノ  
 理ヲ明ニスルニ足ルヘキ學問アラサリシカ故  
 ニ、教會專ラ理論ヲ以テ其威權ヲ張り、其勢力ヲ  
 求ムルコトヲ得タリ、○教會常ニ云ヘリ、吾教會ハ  
 宜シク靈魂界ナル可ク、國家ハ宜シク體軀界ナ  
 ル可シト、若、教會ト國家ト相交關スルノ理ヲ以  
 テ、靈魂體軀ノ相關涉スル理ト、全ク相同シト為  
 セハ、教會ハ帝ニ國家ノ上ニ立ツノミナラス、實



ニ之ヲ制馭スルノ權ヲ握ルヨリ好キハナシト云フ可シ、威力強大ナリニ教皇ハ、其權ヲ以テ實ニ國家ヲ制馭センコトヲ謀リテ、國家ヲ教會區域ノ一部ト為サント欲シ、且、國家ノ權ヲ施行スル所ノ帝ハ、宜シク教會ノ封侯ノ如クナル可シト云フノ論ヲ主張シタリキ、○グレゴール第七世羅教皇、一千零二十年印度ニ生レ、其七十ハ、獨乙帝三年教皇ノ位ニ陞リ、八十五年ニ殂ス、顯理第三世年一千零十七年ニ生レ、其三十九此帝強大ナル權カヲ以テ、能ク教皇ヲ廢立シタリ、ノ殂セシ後ニ至リテ、始テ靈魂體軀ニ界ノ兩權ヲ

教會ニ統一シ、而テ帝ニハ唯全ク教會ノ監督ヲ受ケテ、國權ヲ施行スルコトヲ許シタリ、并ニイソノケンツ第二世教皇、一千一百六十二年羅馬ニ生レ、其九十八年教皇ノ位ニ陞リ、一千二百一十モ、亦同シク右ノ兩權ヲ教會ニ統一スルヲ得タリキ、○教會其權ヲ以テ國家ヲ管理スルキハ、殊ニ左ニ舉ル所ノ數事件隨テ生ス可シ、

〔一〕教道ニ於テ、信神ノ為、及、教會制度ニ就テ緊要ナル法、即チカノニセス、レヒト〔接〕教會ノヲ以テ第一等ノ法ト為ス、



〔三〕教徒ヲ以テ俗人ヨリ尊貴ナル者トナシ、而テ  
 國家ヨリ教徒ニ特權ヲ授與ス、〔按〕租稅ヲ赦免シ、  
 其他俗人ニ准許  
 授與スルヲ云、

〔三〕實ニ教皇ノ罪ヲ受ケタル者ハ、選舉セラレテ  
 王位ニ陞ルヲ得ス、且帝若教道ヲ疑フコトアルハ  
 ハ、則直ニ教罰ヲ受ク、○帝若教皇ニ恭順セサル  
 コトアルハ、則直ニ位ヲ黜ケラレ國ヲ奪ハレ、且  
 其臣僚ヲシテ敢テ帝ニ恭順スルヲ得サラレズ、  
 〔四〕基督教ノ正道ヲ傳播シ、而テ火及劍ヲ以テ異  
 端邪說ヲ驅逐スルノ裏置、國家ノ義務トナル、

中古ノ教會ハ、其知識ノ國家ニ優ルヲ以テ、實ニ  
 國家ノ上ニ位スルヲ得シカニ、遂ニ全ク國家ヲ  
 制馭スルヲ得ルニハ至ラザリキ、  
 國家ノ法院儘教會示ス所ノ規律ニ容喙スルコ  
 トアリキ、勇騰アル貴人エーケ、ホシ、レプロウ  
 代ノ人、百年ナル者ハ、其編作セルサクセンスビ  
 一

ゲル〔按〕中古獨  
 ノ中ニ、勇壯ナル語ヲ記セリ、曰ク  
 〔按〕  
 繼令、教皇ト雖、敢テ吾邦ノ常法若クハ藉土法ヲ、  
 損害スル所ノ法ヲ設置スルヲ得スト、又佛國ノ

英主路易第九世一千二百十五年ニ生レ、其二十  
 六年ニ即位シ、其七十年ニ歿ス、



ハ、教皇ヨリ教罰ヲ受クル者アル毎ニ、其者實ニ  
教罰ヲ受ク可キ罪アリヤ否ヲ、自己ノ法院ヲシ  
テ預探索セシメタリキ、○國家ノ法院ハ、教會法  
院ノ恣ニ威權ヲ振フヲ惡ミ、カヲ極メテ之ヲ防  
拒シ且、國王若、教罰ヲ蒙ルトアリ氏、決シテ柔順  
ニ之ヲ奉スルトヲ為サス、又其臣僚若、教罰ヲ蒙  
ルトアリ氏、敢テ之ニ屈セスシテ、猶其君ノ為ニ  
忠節ヲ存セシ者少カラサリキ、○又時アリテハ、  
教罰ヲ受ケタル王公及、都人等、教會ノ專權ヲ惡  
ミ、大ニ憤怒シテ復讐ヲ謀リ、而テ赦罪ヲ肯セサ

リシ教士ヲ驅逐シタリキ、其他又時アリテハ教  
士ヨリ租税ヲ收取シ、及、罪犯アル教士ハ、國家ノ  
法院ニ於テ之ヲ罪セシトモアリキ、○去、其大  
勢ヲ觀レハ、教會ノ勢力頗、強大ニシテ、常ニ國家  
ノ右ニ出、タリ、蓋、國家ノ知識ハ猶淺クシテ、自ラ  
教會ノ學ニ抗抵スルノ術如何ヲ知ル能ハサリ  
シニ由テナリ、教會ハ常ニ自ラ國家ノ上ニ位セ  
ント欲シテ專ラ勉勵シ、而テ教會ハ天神ノ立ル  
所ナレハ、宜シク人ノ立テシ國家ノ上ニ位スヘ  
キヲ、固ヨリ天理ノ當然ナリト自ラ誇稱セリ、然



ルニ國家ハ僅ニ世事ニ係レル自由權按精神靈  
 相異ナリ、權トヲ增益シ、及、天神直ニ賜フ所ノ二劍  
 (一ハ教皇ニ賜ヒ、一ハ帝ニ賜フ)ヲ殆、同等ノ者ト  
 ナスヲ以テ足レリト為シタリキ、按蓋國家ハ教  
 アト欲スルヲ念慮、絶テ、○其後ホトヘンスタウ  
 ヘン氏按獨一帝ノ位ヲ得タル一氏族ノ名ナリ、  
 十四年ニ滅亡セヨリ、世偏ク教會ヲ以テ國家  
 ノ上ニ位スル者トシテ認ムルニ至レリ、但、國權  
 敢テ教會ノ制馭ヲ仰ク可カラサル旨ヲ主張ス  
 ル者ハ儘之アリキ、即佛王非立第四世一千二百  
六十七年

四年ニ至ル、三百十八、一千三百零四年乾元ニ當リ、教  
 皇ボニツツ在位ノ時間、一千二百九十二年ニ抗抵シ  
 テ此論ヲ主張シ、并ニ獨乙帝路易六年ニ生ヒ、三十  
 百四十四年ニ即位ス、及、獨乙國會相俱ニ、一千三百  
 三十八年延元佛朗佛ノ會議ニ於テ、此論ヲ主張  
 シタリキ、  
 去レ、國家ト教會トノ關係、遂ニ右論スルカ如キ  
 景況ニ止マリシニハアラス、既ニ第十四世期ヨ  
 リ國家次第ニ外權按外面ニ對抗ヲ復興シテ、教  
 會ノ制馭ヲ脱センヲ謀ルニ至レリ、蓋、國家專



ラ太古羅馬國ノ政令ニ則リ、且、勉メテ羅馬ノ法ヲ取りシカ故ニ、自己ノ甚、高尊ニシテ、決シテ教會ノ制馭ヲ受クル者ニアラサル所以ヲ悟リシニ由テナリ、○學問モ亦教會ノ用ヲ濟ス者ト、國家ノ用ヲ濟ス者ト相分テ、加之從來全ク教會ノ看護ヲ受ケシ學問、次第ニ此看護ヲ脱シテ、自ラ國家ニ屬スル者トナリ、隨テ羅馬ノ法學ヲ講求スル所ノ學士盛ニ輩出シテ、教會ノ法學ヲ講求スル學士ニ對敵スルヲ得ルトナレリ、是ニ於テ國家ハ嘗テ教會ノ恣ニ自己ヲ以テ靈魂トナ

シ、國家ヲ以テ體軀トナセシ比較論(例ハ自己ヲ以テ晝間ニ光ヲ放テル太陽ニ比シ、國家ヲ以テ夜間ニ光ヲ放テル太陰ニ比スルカ如シ)ヲ、非ナリトシテ取ラサルニ至レリ、○然ルニ教會ハ自ラ盛大ノ威力ニ由テ全ク國家ヲ制馭スルヲ得タリト思惟シテ、遂ニ其權ヲ國事上ニ施行セシテ、謀リ、愈此事ニ勉勵シタリキ、去レテ教會此事ノ為ニ、決シテ自己ノ外權ヲ加ヘ、自己ノ榮光ヲ増ス能ハサリシノミナラス、却テ神道ノ純清ヲ汚シ、及其能力ヲ減シ、加之教會ノ精力次第ニ



衰弱セシカ故ニ、日々ニ強盛ニ赴ケル國家ニ對  
 抗スル能ハサルニ至レリ、○既ニ第十五世期ニ  
 至テハ、以太利ノヘ子チクノ如キ小國ノ貴族政  
 府アリス政權ヲ執ラレル者ト雖モ其近地ニ在ル所ノ  
 教皇ニ對抗シテ其侮ヲ禦キ、以テ自己ノ威權ヲ  
 全クスルヲ得タリ、蓋シ當時ヲ去ル二百年前ニ在  
 テハ、帝ノ權カト雖モ決シテ此ノ如キヲ為シ能  
 ハサリキ、僅ニ二百年ニシテ教皇ノ威權斯カ變化  
 セシハ、真ニ驚クニ堪ヘタリ、是ニ於テ教會ノ其  
 地位ヲ國家ノ上ニ占ムルハ、實ニ天理ニ反シ正

道ニ背ケル所以ノ理、及此事帝ニ國家ニ害アル  
 ノミナラス、教會ニモ亦甚ク害アル所以ノ理、自ラ  
 明瞭トナルニ至レリ、

第十六世期以來エースイテンオルゲン〔按〕加特カ

傳ニ於テ一種ノ等、教皇インノケンツ第三世前出ソ

ノ論旨ヲ繼テ、更ニ教皇ノ威權ヲ以テ國家ヲ制

馭センヲ謀レリ、但シ當時ニ在テハ教皇ノ威權、

決シテ往昔ノ如ク無限ノ大權ヲ掌握スルニ堪

ヘサルヲ悟リシカ故ニ、敢テ無限ノ大權ヲ廢希

セス、唯教會ノ威權ヲ維持センカ為ニ、教皇



ヲシテ國家ノ事ニ其権カヲ施行セシムルヲ甚ク  
 緊要ナリト云フノ論ヲ立テ、以テ大ニ人心ヲ得  
 レト欲シタリ、蓋此論ハ自ラ教會ノ威權ヲ減削  
 スルニ似タリト雖、頗時勢ヲ知レル者ト云フ可  
 シ、然ルニ其初ニ於テハ、教皇シキスツス第五世  
 一千五百二十一年ニ生レ、其八十五年ニ殂ス、モ、亦此論ヲ  
 以テ頗弊害アル謬見ト為シテ擯斥セシカニ、其  
 後ニ至リテハ教皇政府此論ノ至當切要ナル所  
 以ヲ悟リ、遂ニ之ヲ認許スルニ至レリ、○是故ニ  
 其後ニ至リテハ、教皇政府此ノ如キ處分ヲ以テ、

各國王ニ信ヲ取リ、之ヲシテ教會ノ事ニ服従セ  
 シムルヲ得タリ、就中歐洲南方羅馬人種ノ各  
 國ニ於テハ、殊ニ此ノ如クナリキ、去氏其大勢ニ  
 就テ觀レハ、此ノ如キ處分、決シテ永ク其功ヲ奏  
 スルニ足ラザリキ、何者、今時猶二三ノ國ニ於テ  
 ハ、公事ニ就キ儘教皇政府ノ指揮ニ従フヲ以テ、  
 國ノ為ニ大ニ便益ナリトスルヲナキニシモ、ア  
 ラスト雖、<sup>モ</sup>蓋衆民猶教皇ノ政ニ去氏各國全ク  
 教皇ノ制馭ヲ受ケント欲スルノ心絶テアラサ  
 レハナリ、是故ニ今時ハ教皇政府モ、亦勢自ラ各



國ヲ制馭スル能ハサルヲ知ルト雖猶尊大ヲ主  
トシテ、自ラ各國政府ノ上ニ位スルノ權利ヲ握  
ルト誇稱ス、

第三第十六世期ニ於テ、教會改正アリシヨリ、國  
家ト教會ト相關涉スル景狀一變シテ、更ニ進歩  
ヲ加ヘタリ、但、此進歩ノ端緒ヲ開キタル者ハ、國  
家ノ英傑ニアラスシテ、教會ノ改正ヲ謀リシ人  
傑ナリキ、即、獨乙國波羅特士且派ノ始祖タルル  
テルハ、特ニ神道ノ旨意上ニ心ヲ用ヒ、偏ニ其正  
善ヲ復興スルヲ以テ教會ノ主務トナシ、而テ教

會ノ自ラ國家ヲ制馭セント欲スル心情ヲ以テ、  
甚、邪惡ナル者トナシ、大ニ之ヲ賤メリ、○是ニ於  
テ波羅特士且派ハ、偏ニ教會ノ改正ヲ遂ケンカ  
為、ニ、唯質直ナル處女ノ如クナリテ、國家ノ輔助  
擁護ヲ求メ、而テ決シテ自ラ國君ノ如キ威嚴榮  
光ヲ得ント欲セス、總テ世事ニ就テハ、好テ國家  
ノ指令ニ從フヲ旨トシ、獨、神道ノ旨意ニ就テハ、  
十分ノ自由權ヲ保有シテ、決シテ國家ノ為、ニ妨  
碍セラレサランヲ願フタリ、是ヲ以テ此教派  
ハ、自ラ務メテ神意ヲ奉レテ、自己ノ靈魂及、國家



ノ靈魂ヲ神意ニ合セント欲セリ、蓋波羅特士旦  
 派ハ、國家ノ成立モ亦元來神意ニ出ルノ理ヲ悟  
 リ、而テ基督教ヲ奉スル各國ノ如キハ、最モ此理  
 ニ從テ神ヲ畏敬セサル可ラスト為シ、且、縱令偶  
 像教ヲ奉スル各國ト雖、決レテ此理ヲ蔑如スル  
 能ハスト為セリ、

但、爾來教國ニ會社相關涉スルノ景狀、各國自ラ  
 相異ナレリ、二三ノ國ニ於テハ、二會社關涉ノ景  
 狀、古時ビツンツ國ノ景狀ニ復レテ、教會ハ國家  
 ノ下ニ在テ、其制馭ヲ仰ク者ノ如キ勢トナリ、且

時アリテハ、國家ノ域内ニ屬スル一會社ノ如ク  
 ナルニ至レリ、但、基督教ノ旨意ハ、絶テ國家ノ制  
 馭ヲ受クルコトアラザリキ、○是故ニ當時ノ各國  
 ニ於テモ、猶今時開明セル各國ニ於ケルカ如ク、  
 羅馬人ノ精神ヲ繼テ、專ラ政ト法トニ係レルコ  
 トヲ主ト為セシナリ、故ニ當時國家ノ權ト教會ノ  
 權ト相關涉スル景狀、宛羅馬ノ國權ト其教權ト  
 相關涉セル景狀ノ如クナリキ、但、國權ハ殊ニ國  
 内ニ限リ、教權ハ各國ニ通達スル者ナリキ、然ル  
 ニ各國ノ權カ次第ニ強盛ナルニ隨テ、遂ニ國家



ヲ治ムル者、宜シク兼テ教會ヲ治ム可シト云ヘ  
 ル論說起レリ、而テ加特力派ニ信從セル君主等  
 モ、亦此說ヲ以テ加特力派ヲ挽回スルニ緊要ナ  
 ル者ト為セリ、  
 去<sub>レ</sub>ニ當時ノ世態及輿論ハ、大ニビツ<sub>ン</sub>ツ國ノ古  
 昔ト相異ナリケレハ、教國ニ會社ノ關涉モ、亦自  
 ラ相異ナラサルヲ得サリキ、當時ノ國家ハビツ  
 ンツ國ノ如ク、專治ノ權ヲ握ル能ハサリキ、故ニ  
 國家ハ、實ニ教會ノ上ニ地位ヲ占メタリト雖<sub>モ</sub>其  
 本意タル、決シテ之ヲ制馭スルニアラス、唯之ヲ

管督看護スルノミナリキ、

波羅特士且派ノ如キハ、加特力派ノ如ク一主長

ノ統治ヲ受クル<sub>ト</sub>、絶<sub>エ</sub>テアラザリキ、(按)加特力教

ヲ主長トナリテ、之(按)即波羅特士但<sub>レ</sub>此新教派(按)即波羅特士ト雖<sub>モ</sub>

其教旨ニ係レル<sub>ト</sub>ニ就テハ、各國ノ教會互ニ相

通ニ相結ヒシカ<sub>レ</sub>、其教會大憲ル<sub>キ</sub>ル<sub>ハ</sub>ニ至

リテハ、各國全ク別個ニ之ヲ設立シタリ、○是ニ

於テ、邦土教會(按)國家特別ヲ云フ、但<sub>レ</sub>國家自

ラ之ヲ信奉スル<sub>ニ</sub>アラス、故ニ國教會ノ名義始

ト稱スル者ト相異ナリ、混スル<sub>ニ</sub>勿<sub>レ</sub>、(按)共

テ生シ、而テコンシストリ<sub>ク</sub>ム及<sub>シ</sub>、(按)高







全ク加特カ派ノ旨ニ從テ、其政令ヲ施行セシカ  
 氏、敢テ自ラ教皇政府ニ謙遜セント欲スルノ意  
 絶<sub>ニ</sub>テナク、且佛國ニ於テ自己ノ權カヲ、遙<sub>ニ</sub>ニ教皇  
 ノ權カヨリ強大ニナス<sub>一</sub>ヲ得タリ、故ニガルリ  
 カニ<sub>ニ</sub>キルヘ出<sub>ツ</sub>モ、亦全ク路易十四世ニ服從  
 シタリキ、○第十八世期ニ至リテハ、獨<sub>乙</sub>及<sub>レ</sub>奧地  
 利ニ於テモ、亦國家實ニ教會ノ制取ヲ脱シテ、自  
 立セント欲スルノ志情盛ニ生シタリ、獨<sub>乙</sub>女帝  
 マリア、テ<sub>レ</sub>シ<sub>ア</sub>一<sub>千</sub>七<sub>百</sub>七<sub>十</sub>七<sub>年</sub>ニ生<sub>レ</sub>、其<sub>四</sub>  
 十<sub>年</sub>ニ即位シ、八<sub>十</sub>年ニ殂ス、ハ、  
 其<sub>ミ</sub>ニ<sub>ニ</sub>ス<sub>テ</sub>ル<sub>カ</sub>ウ<sub>ラ</sub>ツ<sub>テ</sub>、<sub>按</sub>一<sub>千</sub>七<sub>百</sub>十<sub>一</sub>年ニ於  
 テ、奧地利ノ維也納ニ生

レ、其<sub>九</sub>十<sub>四</sub>ト共ニ、國家ハ必<sub>ス</sub>教會ノ上ニ立<sub>テ</sub>之  
 年ニ死ス、  
 ヲ管督スヘキノ論ヲ銳意ニ主張シ、且、ヨ<sub>一</sub>セ<sub>フ</sub>  
 第二世<sub>マ</sub>リ<sub>ア</sub>、テ<sub>レ</sub>シ<sub>ア</sub>ノ子ニ生<sub>レ</sub>テ、其<sub>嗣</sub>君ナリ、  
 一<sub>千</sub>七<sub>百</sub>四<sub>十</sub>一<sub>年</sub>ニ生<sub>レ</sub>、其<sub>六</sub>十<sub>五</sub>年ニ  
 即位シ、九<sub>十</sub>モ、亦粗暴敢テ顧ミルナキノ性ヲ以  
 テ此論ヲ繼キ、全ク之ヲ遂クルヲ得タリ、又一<sub>千</sub>  
 七<sub>百</sub>八<sub>十</sub>九<sub>年</sub>、元<sub>政</sub>獨<sub>乙</sub>教會ノ高官等亦エムス  
 地<sub>獨</sub>名<sub>乙</sub>ニ相會シテ、獨<sub>乙</sub>ノ加特カ教會ハ、自今羅  
 馬教皇ノ專權ヲ脱シテ自立セ<sub>レ</sub>テ<sub>一</sub>ヲ商議シタ  
 リ、○當時性理學漸<sub>レ</sub>開明シ、且、民智モ亦漸<sub>レ</sub>增長セ  
 シカハ、之ニ由テ國家遂ニ教會ノ管督ヲ免<sub>ル</sub>ル、



ヲ得テ、全ク自己ノ威權ヲ伸ルトナレリ、去レ  
 之カ為、ニ中古ノ如ク、國家ト教會トノ間ニ、一時  
 争鬪ヲ生セシカ、此争鬪ハ大ニ國家ノ為、ニ幸福  
 トナレリ、○是ニ於テ、國家ハ全ク教會ノ管督束  
 縛ヲ免レテ、法制ニ係レル全權ヲ掌ル者トナリ、  
 而テ此事遂ニ全ク方令ノ通則トナレリ、是故ニ  
 方令ノ國家ハ、諸教會ニ相對シテ獨立不羈ノ者  
 ニシテ、實ニ教會ノ外ニ其地位ヲ占ムル者ナリ、  
 『第五』但、以上舉ル所各國ノ如キハ、皆國教會（一）ト  
 ンキル（二）或ハ邦土教會（三）ト相異ナル所（四）以

ハ、前『第三』ノ註ト、密ニ相繋合シタル者ノミ、然ル  
 ニ獨、北亞米利加ノ如キハ否ラス、夙ニ國家ト教  
 會トノ繋合ヲ解テ、全ク相離分スルヲ旨トナシ、  
 而テ縱令、（按）立法府（一）ト雖、敢テ一教門ヲ  
 以テ、天下ノ公教ト為スノ憲法、及、臣民ノ自由ニ  
 他教ニ歸依スルヲ禁スルノ憲法ヲ立ル能ハサ  
 ル旨ヲ、國憲ニ載定シ、以テ確乎不拔ノ制度ト為  
 セリ、○但、北亞米利加ノ此制度ヲ立ルノ本意タ  
 ルヤ、決レテ基督教ヲ度外ニ措テ、敢テ省ミサラ  
 ント欲スルカ為、ニアラス、又、馬哈默教、猶太教、若



クハアタイスマス〔按〕神ヲ信セテ、勸メント欲スルカ為ニアラス、唯古來各國ニ於テ、教門ノ為ニ屢起リタル争鬪ノ覆轍ヲ踏マンテ、且宗國〔按〕英國ヲ云フ、英國ハ亞米〔按〕ニ於テ、曾テ其君主ノ信セサル教派ニ歸依セシ者ヲ、恣ニ驅逐セシ暴政ニ儆ハンテ、恐レシカ故ニ、偏ニ基督派ノ争鬪ヲ制止シテ、特ニ其一派ノ遂ニ國教會トナルヲ、防阻セント欲スルカ為ナリ、○或ハ國家已ムヲ得サルニアラスレテ、教會ノ事ニ關シ、或ハ教會恣ニ國事ニ容喙スルカ如キハ、實ニ弊害ヲ

生スル少カラサルヲ以テ、寧全ク此二會社〔按〕國家トヲ離分シテ、從來ノ繫合ヲ解クヲ優レリト為シ、且諸教派ヲ悉皆容忍スルヲ以テ、實ニ真理ニ合スルト為セシカ故ニ、皆同一ニ認許シ、而テ各派ノ事ハ各派ニ任シ、國家ハ敢テ此事ニ苦心セサラント欲シタリ、但此制度ハ、全ク亞米利加人ノ素志ヨリモ進歩シタル者ナリ、元來亞米利加人及其諸邦共ニ、基督教ヲ度外ニ措テ、敢テ省ミサラント欲スルノ念慮ハ絶ニテアラサリキ、然ルニ其制度ヲ立ルニ



及テハ、遂ニ教國ニ會社ヲ全ク離分シ、而テ國家ハ教會ヲ以テ、唯教道ノ為ニ結ヘル會社ト視做シ、全ク之ヲ度外ニ措クト為セリ、是蓋國人ノ素志ニハ合セサリレトナリ、但レ教會ヲ度外ニ措テ敢テ省ミストハ、唯國家自ラ教會トノ關涉ヲ止メ、而テ如何ナル教派ト雖、其意ニ隨テ自由ニ存在スルヲ許ス(容忍スル)ヲ云フナリ、然ルニ此他猶交關ヲ止ムルノ一方法アリ、而テ此方法ハ甚激烈ナル者ナリ、即基督教ヲ憎惡ンテ、之ヲ驅逐スルヲ云フナリ、彼佛國顛

覆ノ時ニ方リ、國家暴ニ教會ヲ毀テ、基督教ノ教育ヲ禁シ、教徒ヲ殺シ、天神ヲ蔑ニシ、及道義ヲ傷ヒシカ如キ、皆是ナリ、○是故ニ諸教會ヲ容忍スルト、暴ニ之ヲ驅逐スルトハ、其方法相異ナリト雖、國家ト教會トヲ離分スルノ意ニ至リテハ、全ク相同シ、國家自ラ教會トノ關涉ヲ止メント欲スルノ心ハ、例ヘハ右ニ方法按容忍スルト、驅逐スル母ノ如シ、然ルニ教會ヲ度外ニ措クノ心ハ、例ヘハ第一方按容忍ノ父ノ如ク、又之ヲ憎惡スルノ心ハ、例ヘハ第二方按驅逐ノ父ノ如ク然



リ、〔按〕ニ方法ナル兄弟、父ヲ容忍ハ度外ニ措クノ異ニヒ、母ヲ同シウス、心ヨリ生シ、驅逐ハ憎惡スルノ心ヨリ生ス、

〔第六〕歐羅巴各國輒近北亞米利加ノ教國離分レトシ、〔按〕ニ方法ナル兄弟、父ヲ容忍ハ度外ニ措クノ異ニヒ、母ヲ同シウス、心ヨリ生シ、驅逐ハ憎惡スルノ心ヨリ生ス、  
ヘ、ウソング、ホソ、キルノ制度ニ倣ヒ、之ヲ取捨シテ教國分畫ルソ、ウソング、ホソ、キルノ制度ヲ設ケタリ、  
○凡、教國ニ會社ノ區域ヲ分畫スルハ、國家ノ權力ハ實ニ全ウシテ、決シテ妨碍セラル、所ナキヲ得、教會モ亦全ク獨立不羈ノ權ヲ保ツヲ得可ク、且、是ヲ以テニ會社相關涉スルノ景狀、全ク此ニ會社ノ威風及體面ニ適シテ、毫モ此二者

ヲ害スルヲナシ、

○〔按〕北亞米利加ハ、前款及本款ニ於テ論スルカ如ク、專ラ天理神道ニ從フヲ旨トシテ、決シテ專ラ某一教派ヲ國教會ト為スヲナク、且、教會ヲ度外ニ措テ、殆之ヲ省ミルヲナシ、是、蓋、教國ニ會社ヲ離分スル者ト云フ可シ、然ルニ歐洲各國ノ如キハ、因襲ノ久シキ、勢自ラ米國ノ制度ヲ全取スル能ハス、是ヲ以テ真ニ教國ノニ會社ヲ離分シ、國家自ラ教會ヲ度外ニ措テ、敢テ之ヲ省ミサルノ制



度ヲ立ル能ハス唯此ニ會社ノ區域ヲ分畫  
スルニ過キサルノミ故ニ離分ノ制度ト云  
ハスシテ分畫ノ制度ト云フナリ

第十八世期ノ頃ハ各國共ニ國家其警保眷顧ノ  
權ヲ以テ教會ヲ制馭セント欲セシカ氏既ニ文  
明開化ノ第十九世期〔按一千八百零一年ニ至リ  
ヨリ以後ヲ云フ〕テハ此事決シテ良善適切ナリト云フ可ラス方  
今開明ノ世ニ在テハ國家及私人共ニ自由ノ權  
ヲ有スルヲ最緊要ナレハ教會ニモ亦教事ニ就  
テハ必自由權ヲ與ヘ且自由ニ教會事務ヲ掌ル

ノ權ヲ執ラシムルノ緊要ナルヲ固ヨリ辨テ候

スカホウルニ以テ利人一千八百十年カ下自由ナル

國家ニ於テ自由ナル教會アル可ト云ヒシハ

全ク方今明世ノ至當論ト云フ可シ但ウルトラ

モンターソン〔按〕教皇ノ專權カ希望セシ如ク教會

若其自由權ヲ恣ニシテ遂ニ國家ヲ制馭セント

欲スルニ方リテハ國家宜シク力ヲ極メテ之ヲ

防制セサル可ラス○國家ハ自己ノ事ニ於テハ

必自己ノ靈魂ヲ用ヒ及自己ノ體軀國憲ヲ役ス

ル一當然ナレハ教會ニモ亦教會ノ事ニ就テハ



自己ノ靈魂ヲ用ヒ、及自己ノ體軀(教會大憲<sup>キル</sup>ヘンル  
 ス<sup>ヘン</sup>グ<sup>ラ</sup>)ヲ役スルヲ許ス<sup>ス</sup>、固ヨリ當然ナル可<sup>シ</sup>  
 中古ノ世ニ於テハ、基督ノ神道ヲ以テ、教ト政ト  
 ヲ統合セル者トナシ、又教會ヲ以テ靈魂ニ比シ、  
 國家ヲ以テ體軀ニ比シ、而テ此靈魂體軀相合シ  
 テ、始テ惟一ノ基督神道ヲ為ス者ト考ヘシカニ  
 是、全ク迷誤ノ甚<sup>タ</sup>シキ者ト云フ可<sup>シ</sup>、故ニ近世ニ  
 至リ、始テ國家ト教會トノ全ク二物ナルヲ悟リ、  
 且、二物各靈魂ト體軀トヲ兼具スルノ理ヲ知ル  
 ニ至レリ、○但、國家ハ自由ナル男魂ヲ以テ自ラ

修ムルノ權アリ、然ルニ教會ハ專ラ天神ノ啓示  
 言ニ依頼シ、殊ニ之ニ從テ道義ヲ行ヒ、以テ自己  
 ノ事ヲ修ムル者ナリ、凡、人類男女ノ二性ハ、元來  
 其權ヲ異ニシ、其務ヲ殊ニスト雖、相合シテ始テ  
 完全ノ者トナルカ如ク、國家ト教會モ亦造化ニ  
 於テ相反スル者ナルカ故ニ、實ニ相分ル、一當  
 然ナレニ、又必、相須テ始テ完全ノ者トナルナリ、  
 乃、國家ハ專ラ自己ノ意ヲ以テ、自己ノ事ヲ修ム  
 ル會社(人民會社)ナレハ、宛、男子ノ如シ、教會ハ專  
 ラ天神ノ意ニ從テ、道義ヲ行フ會社(信者會社)ナ



レハ、宛女子ノ如ク、  
 方今教國ニ會社ヲ、分畫スルノ制度ヲ立テシヨ  
 リ、自ラ左ノ數條ノ理、國家ノ為ニ生スルヲ知ル  
 可シ、

〔甲〕國家ハ教會ノ域内ニアラスシテ、全ク其域外  
 ニ在ルカ故ニ、決シテ教會ノ管轄ニ属スルヲナ  
 シ、是ヲ以テ國家其憲法ヲ制立スルニ方リ、敢テ  
 教會ノ遵奉セル啓示言ノ旨ニ從フヲ要セス、又  
 敢テ猶太教ノ憲法、及中古ノカノニレシヒト  
 〔按〕教會ヲ敬守スルヲ要セス、加之縱令基督教ノ  
 憲法

道義ノ旨ト雖必取リテ國家ノ憲法ト為サハル  
 可ラスト云フノ理ハ、決シテアルヲナシ、國家其  
 憲法ヲ制立スルニ方リテハ、唯偏ニ正直且、便益  
 ノ事ヲ撰取スルノ權、全ク自己ノ掌中ニ在リ、  
 國家特ニ某一派ヲ主派トシテ奉スルノ制度、〔按〕  
 國教會ヲ猶未ニヒサル間ハ、其憲法ヲ制立スル  
 ニ於テ、敢テ教會ノ權ニ依賴セス、全ク自己ノ意  
 見ヲ以テ、偏ニ正直及、便益ヲ撰ハント欲スルヲ  
 容易ナラス、去ルカ特力派ヲ主派ト為セル國ニ  
 於テスラ、尚婚媾ノ憲法等ヲ立ルニ方リテ、儘ト



リीडենチニヒス、コンチル〔按一千五百四十五年、以太利ノトリ  
ント云ヘル地ニ於テ、加特ニ於テ、議定セシ規  
カ教會ノ開キシ會議ヲ云、律ニ從ハサルヲ緊要トシタリシ、全ク之ニ反  
セル制度ヲ立テシテアリキ、○但特ニルテル派  
或ハ其他改正派〔按〕ノツヰングリ及ヒカヲ主派  
トナセル國ニ於テハ、國家元首躬ヲ教會ニ入ルカ  
故ニ、國家ノ憲法ヲ制立スルニ方リテ、縱令ヒ教會  
ノ權ニ依頼セサルモ、決シテ患害ヲ受クルトナ  
シ、○又希臘加特力派ヲ主派トシテ奉スル所ノ  
俄羅斯國ノ如キモ、國君兼テ教會ノ主長タルカ

故ニ、其憲法制立ニ於テ、敢テ教會ノ權ヲ畏憚ス  
 ルヲ要セス、去レ國君特ニ此派ニ親附スルカ故  
 ニ、他ノ教派ヲ信奉スル臣民ノ為ニハ甚害ナキ  
 能ハス、

○波羅特士且教會ハ、今時仍ホ國君ニ教長ノ權  
 柄ヲ歸ス、但國君ノ此權柄ヲ掌握スルヤ、決シ  
 テ國權ヲ掌握スルノ理ヨリ生シ来ルニアラ  
 ス、唯古來國君教會ノ權柄ヲ兼掌セシ風習ノ  
 遺レル者ナルハ、衆人ノ敢テ疑ハサル所ナリ、

〔乙〕國家ノ官吏或ハ公民スノ公權利ヲ有スル臣



民ヲ等、唯自己ノ有セル公權利ヲ施行スルニ就  
 テハ、決シテ教會ノ檢査〔接〕人物行狀ノヲ受クル  
 ヲ要セス、凡、教會ナル者ハ、自ラ道義ヲ勸誘シ、國  
 家ヲ獎勵シテ、治安ニ盡カセシムルヲ甚、緊要ナ  
 リト雖、教會自己ノ權力ヲ以テ、國家ヲ指揮セン  
 ト欲スルカ如キハ、決シテ許ス可ラス、是故ニ教  
 會ナル者、國家ノ代者〔接〕吏及立法府議員ヲ檢  
 査可否スルカ如キハ、全ク自己ノ權力ヲ恣大ニ  
 シテ、國家ノ權柄及國家ノ自由權ヲ毀損スルノ  
 所行ト云フ可シ、

〔丙〕國家ハ諸國權ヲ自己ニ收攬ス、故ニ外面ニ發  
 顯スル強權ハ、悉皆國家ノ掌握スル所ナリ、凡、立  
 法、施政、及司法ノ權柄ハ、當ニ國家ノ掌中ニ在ル  
 ヘキ者ナリ、故ニ國家ハ、教會ノ恣ニ是等諸權柄  
 ヲ施行セント欲スルヲ、禁スルノ權利アリ、但、國  
 家縱令、是等諸權柄ノ幾分ヲ施行スルノ權利ヲ  
 以テ、一時教會ニ准許スルヲアリ、更ニ此權利  
 ヲ追奪スルハ、固ヨリ國家ノ自由ニスル所ナリ、  
 ○但、教會ナル者、道義ノ教育ニ就テ懲戒ヲ施ス  
 カ如キハ、全ク其主任ナレハ、決シテ權外ノ處分



ト為ス可ラス、去<sub>レ</sub>凡教會若<sub>レ</sub>國家ノ准許ヲ受ケス  
 レテ、恣ニ人民ヲ罰シ、或ハ強ヒテ租稅ヲ取ルカ  
 如キハ、實ニ國家ノ權ヲ犯スノ所行ト云フ可シ、  
 總テ教會ノ權域ヲ定限スルノ權ハ、全ク國家ノ  
 掌中ニ在リ、

〔丁〕國家ハ教會ヲシテ國事ニ預ラシメ、且殊ニ教  
 育事務ニ於テハ、自己ト共ニ從事セシムルノ權  
 アリ、去<sub>レ</sub>凡國權ハ必<sub>ス</sub>常ニ自己ノ掌中ニ保持シテ  
 決シテ之ヲ分割ス可ラス、且決シテ教會ノ恣ニ  
 國權ヲ弄スルヲ許ス可ラス、若<sub>レ</sub>教會ノ權此ノ如

ク強大ナルニ至ル片ハ、法制遂ニ二途ニ分レ、且  
 並立セル二大權（憲）國家ト教會トヲ云ス、争鬪、遂ニ息ム時  
 ナカル可シ、

第六款 方今國家ノ教會ニ相對シテ有ス

ル權利（チ）、レヒテ、デス、モデル子  
 ガ、アウス、ヂ  
 一、キルヘ、

〔第一〕方今國家ノ情勢ニ隨ヒ、教會ニ相對シテ施

行スル所ノ權利及<sub>レ</sub>義務ヲ稱シテ、キルヘシホ  
 ハイト（按）教會ニ對シテ施行ト云フ、但<sub>レ</sub>國家唯世  
 スヘキ、高尊權利ノ義、ト云フ、



事ヲ治メ道義ヲ守ルノ主務〔接〕即チ國家ノヲ以テ、  
 施行スル所ノ權利ヲ云フノミ、故ニ國家其權ヲ  
 直ニ教會ノ政令キルヘンレギメント〔接〕教會ノ  
 事ニ就テ、教會ノ施行スル政令  
 云、上ニ施行スルカ如キハ、敢テキルヘンホ  
 イトノ語ヲ以テ目ス可ラス、是ヲ以テ此キル  
 ンホーハイトナル權利ハ、縱令、基督教ヲ奉セ  
 サル國ニ於テモ之ヲ行ヒ得可ク、且、如何ナル教  
 門如何ナル教派ニ相對シテモ之ヲ行ヒ得可ク、  
 但、此權利ノ區域ハ、殊ニ國家ト教會トノ相關涉  
 スル方法ヲ考定スル意見ノ同シカラサルニ隨

テ、其廣狹ヲ異ニス、故ニ各國此意見ノ同シカラ  
 サルニ隨テ、或ハ此權利ノ區域ヲ廣大ニナシ、或  
 ハ之ヲ狭少ニナセリ、

〔甲〕北亞米利加ノ制度ハ、教會ヲ度外ニ措テ、悉ク  
 之ヲ容忍シ、而テ國家ト教會ヲ全ク離分スルヲ  
 主トスルカ故ニ、國家ノ教會ヲ視ルヤ、宛モ學問會  
 社〔接〕學問ノ勸導獎勵ヲ旨トス、或ハ仁善會社〔接〕  
 善ノ施行ヲ旨トスル會社ヲ視ルニ異ナルナ  
 云フ、即チ病院貧院等ノ如シ、  
 ク、又國家ノ教會ニ對シテ施行スル權利ハ、宛モ右  
 二會社ニ對シテ施行セル權利ニ異ナルヲナキ



ノ理ナリ、(一)選利國ニテハ歐洲各國ノ如ク、教會ヲ社ト同等ノ者ト為ス、是ヲ以テ此國ニ於テハ、キルヘン、ホーハイトナル權利ノ意變シテ、尋常ノ諸會社ニ對シテ施行スル權利、即チ國家諸會社ヲ警保眷顧スル權利ト、全ク同一ノ者トナルルカ如シ、故ニ此國ニテハ、教會ノ教會タル所以ハ全ク廢滅シテ、國家ヨリ之ヲ視レハ、唯教道ノ為ニ相結ヘル一會社ノ如ク然リ、

(乙)然ルニ歐洲波羅特士旦派ノ各國ニ於テハ、一種ノ說起リテ、國家當然有スル所ノキルヘンホ

ーハイトナル權利ノ外ニ、國家猶其權ヲ直チニ教會ノ政令上ニ施行スルヲ良好ト為サント欲スル者アリ、此說ニ從フキハ、國家ハ當ニ教會ヲ監視シテ、其政令(二)教會中ノ、國家安寧及、國家法制ニ、妨害障礙アルヤ否ヲ觀察シ、且之ヲ防制スルノミヲ以テ足レリト為ス可ラス、必ス又其政令實ニ神道ノ本旨ニ協ヒ、教會ノ法ニ合スルヤ否ヲモ、俱ニ斷定スルヲ要スルナリ、

(丙)加特力教會ハ、今時猶國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトナル權利ヲ認許シテ、全ク國



家ノ監督ヲ受ルヲ好マスト雖許多ノ加持力國  
〔按〕專ラ加持力ニ於テハ、教會近世未曾テ國家ノ  
 力ヲ奉スル國ニ於テハ、教會近世未曾テ國家ノ  
 キルヘンホーハイトニ抗抵セリトアラス、故ニ  
 國家常ニ此權利ヲ施行スルニ於テ、決シテ妨害  
 ヲ受ケレト之レアラス、○去レテ國家若實ニ教會ノ  
 區域ヲ犯シテ、其權ヲ施行セント欲スルコトアル  
 ニ方リテハ、加持力教會必自己ノ自由權及高尊  
 權利ヲ以テ、嚴ニ之ヲ拒防セント欲スルハ、固ヨリ  
 疑フヘキニアラス、去レテ方今ノ國家ハ或ハ絶ニテ  
 自ラ教道ヲ奉セサルヲ本意トシ、〔按〕米國ノ如ク、  
 或

ハ自ラ教道ヲ奉スルモ、敢テ基督教ノ一派ヲ專  
 奉セシテ、其諸派ヲ共ニ信奉スルヲ本意トス  
 レハ、實ニ教會ノ當然施行不可キ政令上ニ、容喙  
 スルノ權利アラサルカ故ニ、決シテ教會ノ權域  
 ヲ犯スヲ得サルノ理ナリ、

〔丁〕但、國家當然有スル所ノキルヘンホーハイト  
 ノ權利ハ、實ニ方今普ク行ハル、者ナリ、而テ近  
 今各國種々ノ盡力勉勵ニ由テ、始テ能ク之ヲ創  
 立シ及改革スルヲ得タリ、是故ニ儘此權利ヲ用  
 ヒサル國アルカ如シト雖、其實ハ殆然ルニアラ



ス、例ハハ國家教會ニ相對スルニ、唯學問或ハ仁善ノ會社ニ對シテ、施行スヘキ權利ヲ以テスルカ如ク見ユルアルモ、詳ニ其實ヲ探レハ殆然ルニアラス、必ス亦國家當然有スル所ノキルヘンホ  
 一ハイトヲ以テ、教會ニ相對スルト固ヨリ明ナリ、何者國家若ク教道ヲ度外ニ措ク能ハサルノ勢アルキハ、又決シテ實ニ教會ヲ度外ニ措ク能ハサル、固ヨリ辨ヲ俟タサレハナリ、○國民過半專ラ某教會ニ信從スルキハ、此事遂ニ國家ノ政令及國ノ存在ニ、大交感ヲ起スト必然ニシテ、此時

ニ至リテハ、縱令ニ國家自ラ教會トノ関涉ヲ好マスト云フモ、遂ニ己ムヲ得ス、之ト相関涉繋合セサルヲ得サル可久、且若ク教道ヲ信仰スル黨與等ノ情欲、熾ニ發動スルキハ、之ニ由テ強盛ノ勢力ヲ得テ、遂ニ國家ヲシテ教會ノ事ニ関涉セサルヲ得サラシムルニ至ルカ故ニ、縱令ニ國家之ヲ欲セスト云フモ、勢亦之ヲ避クル能ハサルニ至ル是レ蓋シ國家真ニ教會ヲ度外ニ措ク能ハサル所以ナリ、○然ラハ則チ國家ノ教會ニ對シテ、其權利ヲ施行スルハ、全ク教會政令ノ一部分ヲ行



フナルヤ、曰ク決シテ然ラス、必ス唯國家ノ當然有  
 スルキルヘンホーハイトヲ施行スルノニ何者  
 若レ國家ヲシテ、教會ノ政令ニ関セシメント欲ス  
 ルキハ、此ニ會社ヲ分畫(離分ト相異ナリ)シテ、各  
 會社ヲシテ全ク獨立自主ノ者トナラシムルヲ  
 決シテ能フ可ラス、且、國家自ラ某一教會ニ歸依  
 シテ其一部トナル能ハス、若、其一部トナラント  
 欲スルキハ、遂ニ他ノ諸教會ニ相對シテ敵讎ノ  
 如クナルニ至レハナリ、○且、國家若、此ノ如ク其  
 權ヲ教會ノ區域ニ施サント欲スルキハ、必ス加特

カ教會ノ中ニ於テ、大争鬭ノ起ル必然ナリ、(按) 加特

教會ノ中ニ於テ、羅馬教皇ノ党ト  
 國家ノ党ト、大争鬭ヲ生スルナリ、

○歐洲ニ於テハ、今時仍、教會ノ事ニ就テ、大擾

亂ヲ生スル少カラズ、而テ其擾亂ノ起始スル

ニ方リテハ、國家絶<sub>エ</sub>テ之ニ關係スルヲアラサ

ルモ、結局必<sub>ス</sub>之ニ關セサルヲ得サルニ至ルヲ

常ナリ、加之北亞米利加ノ如キモ、教會ニ就テ

事ノ起ルヲ、絶<sub>エ</sub>テナキニハアラス、故ニ時アリ

テハ國家必<sub>ス</sub>教會ノ事ニ關シテ、大ニ盡力セサ

ル可ラサルヲアリ、此國、教會ヲ度外ニ措クノ



制度アリト雖モ、之ヲ熟考スレハ、此制度決シテ堅固ナリト云フニ足ラス、蓋政府モルモリ子〔按〕亞米利加ニ於テ、輓近起シタノ黨ヲ〔按〕教會ニシテ、甚陋惡ナル者ナリ、其故土ヨリ驅逐セシハ、即其明證ナリ、○

○〔按〕此教會ノ開祖マシトナル者、一千八百四十年、〔按〕シシピ河ノ傍ニ於テ、此教會ヲ創立セシカ、甚陋惡ナル教會ナルヲ以テ、政府民人共ニ之ヲ惡シテ、遂ニ之ヲ其故土ヨリ驅逐シタリケレハ、其後サルツセト云ヘル海ノ側ナル荒漠ノ地ニ遷移セリ、去ル

來歸依者漸ク増加シテ、今ハ既ニ數萬人ニ及ヘリト云ス、

〔第二〕國家基督諸教派ノ中ニ於テ、其派ヲ邦土教

會前出ニト為シ、以テ其他ハ諸派及外教〔按〕基督非

ヲ者ト相特別スルハ、殊ニ國家當然有スル所ノ

キルヘンホトハイトヲ施行スル者ト云フ可シ

基督教行ハル、國ニテハ、國家必先其教會ノ存

在、沿革ノ景況、及其教化ノ得失ヲ觀察シ、且其教

會當ニ容忍スルニ足ルノミナラス、必十分ニ准

許シテ、邦土教會ト為スニ足ルヤ否ヲ思考シ、而



テ是等諸件ニ於テ、聊間然スル所ナキ者ハ必、拔  
 テ邦土教會ト為スヲ要ス、○但、又邦土教會ト異  
 旨教會トトガッレトデトントツトキトルトハト按ト邦ト土ト教ト會トノト別トア  
 以テテ今其別アル所以ヲ論センニ、諸教會ノ中  
 ニ於テ、教化ノ方法能ク基督ノ神道ヲ傳播シテ、  
 民人ノ開明ヲ增益スルノ故ヲ以テ、國家其法ヲ  
 以テ之ヲ擁護スルニ足リ、并ニ國家ト共ニ教育  
 ノ事ニ従事セシムルニ足ルヲ明ナル者ハ之ニ  
 高大ノ權利及榮光ヲ與ヘテ、以テ邦土教會ノ名  
 ヲ命ス、然ルニ教化ノ方法ニ於テハ、聊間然スヘ

キ所ナキモ、國內ニ行ハル、未甚久シカラス、且  
 人民ノ信スル者モ未甚多カラステ、未高大ノ  
 權利及榮光ヲ授クルニ足ラサル者ハ、之ヲ異旨  
 教會ト為シテ、以テ邦土教會ト相異ニス、故ニ異  
 旨教會ニモ亦教育ノ自由權ヲ許スハ、固ヨリ可  
 ナリト雖之ヲ邦土教會ト相匹敵スル者トシテ、  
 或ハ其費ヲ償フニ國財ヲ以テシ、或ハ教育ノ事  
 ニ就テ、國家此教會ノ議ヲ取ルヲ要スル等ノ理  
 ハ、決シテアル可ラス、○例ハ獨乙各國ニ於テ、加  
 特力教會、ルテル教會及改正教會按カ、ル、ニ、シ、ン、派、派、



ヲ云フノ三教會或ハルテ派ト改正派トヲ相  
 ナリ、合ル教會ヲ以テ、俱ニ邦土教會ト定ム、然ニ其他  
 ノ數國ニ於テハ、或ハ獨、加特力教會ヲ以テ邦土  
 教會ト定メ、波羅特士旦教會ヲ以テ異旨教會ト  
 為シ、或ハ波羅特士旦教會ヲ以テ邦土教會ト定  
 メ、加特力教會ヲ以テ異旨教會ト為ス、○國家國  
 内ノ景況ニ隨テ、此事ヲ裁定スルハ、全ク其自由  
 ニスル所ナリ、而テ國家若許多ノ教會ヲ以テ、俱  
 ニ邦土教會ト定ムルキハ、國家ノ此諸教會ニ對  
 セル權利タルヤ、宛モ中古ノ世ニ於テ、加特力教

會ノ各國ニ對シ、及各政躰ニ對シテ常ニ施行シ、  
 且、今時現ニ施行スル權利ト全ク相同シ、按左ノ

此旨ヲ  
 説明ス、

教會ハ云フ、「吾ハ敢テ獨、君主國ヲ善トセス、又獨、  
 民主國ヲ善トセス、國家唯吾教會ノ事ヲ認許ス  
 レハ、吾ハ好テ之ト相親睦ス可シ、決シテ其政躰  
 如何ヲ問フヲ要セス、又基督教ヲ信仰シ、教會ニ  
 忠信アル人民ハ、縱令、其者君主政躰ニ左袒スル  
 モ、貴族政躰ニ左袒スルモ、若クハ民人政躰ニ左  
 袒スルモ、吾教會ヨリ之ヲ視レハ、皆同一ノ信者



ナリト、然ルニ國家モ亦云フ、吾ハ敢テ獨、加特力  
 教會ヲ善トセス、又獨、波羅特士旦教會ヲ善トセ  
 ス、吾ハ唯吾國家ノ法ヲ遵守スル者ヲ保護ス可  
 シ、決シテ教派如何ヲ論スルヲ要セス、吾國事ノ  
 眼目ハ特ニ政務ノミ、決シテ神道ニアラス、又偏  
 ニ國家ニ忠厚ナル臣民ハ、其者縱令、加特力派ヲ  
 信スルモ、若クハ波羅特士旦派ヲ信スルモ、吾ヨ  
 リ之ヲ視レハ、皆同一ノ臣民ナリ、是故ニ教會若  
 國政ヲ妨害スルヲアラサレハ、吾ハ敢テ其門派  
 ヲ論セス、好テ之ト親睦ス可シト、

是故ニ邦土教會ノ義ハ、國教會ノ義ト相異ナリ、  
〔按本卷第四款及第五款ヲ查看スヘシ、邦土教會ナル者ハ、國家ト教  
 會トヲ分畫セル國ニ於テ存在シ、又國教會ナル  
 者ハ、教會ヲ國家ニ從屬セシムル國ニ於テ存在  
 ス、故ニ邦土教會ノ存在セル國ニ於テハ、決シテ  
 國家自ラ某一派ヲ信奉スルヲ緊要ト為サスト  
 雖、國教會ノ存在セル國ニ於テハ、國家必、某一教  
 會ヲ信奉スルヲ緊要ノトトナス、  
 教道ノ為ニ結ヘル一會社、若、教化ノ實効ヲ奏ス  
 ヘキヤ否ノト、未、全ク明ナラス、或ハ其規律未、全



ク整ハサルノ故ヲ以テ、真ニ獨立教會トナスニ足ラサルキハ、國家敢テ之ヲ邦土教會ト為シ、若クハ異旨教會トナシテ認ムルヲ要セス、去レ此會社絶<sub>エ</sub>テ國家ニ害ナキヲ明<sub>カ</sub>ナレハ、則<sub>チ</sub>之ヲ政黨テセクト視做シテ、其存在ヲ認許スルヲ善トス、是即<sub>チ</sub>國家其臣民ノ奉教自由ノ權ヲ保護スルカ為シ、此會社ヲモ俱ニ容忍スル所以ナリ、但<sub>シ</sub>此容忍ノ限界ハ、國家先<sub>ニ</sub>自己ノ利害ニ着眼シテ、之ヲ確定スルヲ得可シ、○縱令<sub>ス</sub>國家大ニ之ヲ容忍スルモ、之<sub>レ</sub>カ為<sub>シ</sub>ニ弊害アル<sub>ル</sub>トハ甚<sub>ク</sub>罕<sub>ナ</sub>リ、然<sub>ル</sub>ニ他教

他派ヲ驅逐セント欲スル徒ハ、多クハ十分ニ容忍スル能ハス、去<sub>レ</sub>レ此政黨若<sub>シ</sub>道義ニ背キ、及<sub>シ</sub>法制ヲ害スル<sub>ル</sub>ト明<sub>カ</sub>ナル<sub>ル</sub>キニ於<sub>テ</sub>ハ、國家之ヲ毀壞シ、以<sub>テ</sub>其結合ヲ防避スルノ權利、必<sub>ズ</sub>ナカル可<sub>ラ</sub>ス、國民ノ一部信奉スル所ノ外教〔按〕基督教ニアラサル者ヲ云フ、ヲ、認許容忍スルノ規律モ、亦政黨ヲ容忍スルト同シカルヘシ、外教能ク道義ヲ存シ、及<sub>シ</sub>國家ノ正理ニ背カサル<sub>ル</sub>ト愈<sub>ニ</sub>確實ナル<sub>ル</sub>キハ、其容忍モ亦愈博大ナル可<sub>ク</sub>シテ、愈<sub>ニ</sub>基督教ノ容忍ニ類似スルニ至ル可<sub>シ</sub>、○去<sub>レ</sub>レ專<sub>ラ</sub>基督教ノ行ハル、歐洲



各國ヲシテ、外教ヲ愛慕スル、全ク基督教ヲ愛慕  
 スルト同シカラシメント欲スルハ、甚條理ニ戻  
 レルヲニシテ、彼、教會ヲ全ク度外ニ措テ、敢テ省  
 シサラント欲スルノ制度ト合スル者ナレハ、決  
 シテ實際ニ行ハル可キトニアラス、（前ノ「テ」ヲ  
 赤看スヘシ）  
 『第三』國家ノ邦土教會ヲ保護スルノ方術ハ、異旨  
 教會及、レ政黨ヲ保護スルノ方術ヨリモ、更ニ細密  
 ニ涉ル、蓋、國家ハ邦土教會ノ守護者ナリ、  
 國家ハ邦土教會ヲ以テ、公會社（「テ」ハ「ト」リヘ、コ  
 ル「ポ」ラ「チ」オン）  
 ト為シテ認ム、故ニ之ニ國家ノ公權利ヲ授與ス

ル國アリ、例ハ其代議者ヲ兩院ニ派出スル公權  
 利ヲ授與シ、或ハ一二ノ官司ニ加入スルノ權利  
 ヲ授與スル等是ナリ、其他又教會ノ爵位職官ヲ  
 受領セル者ニ、更ニ國家ノ爵位職官ニ附屬スル  
 等階及、權利ヲ加授スルヲアリ、然ルニ異旨教會  
 及、レ政黨ノ如キニ至リテハ、之ヲ公會社トシテ、國  
 家ノ公權利ヲ授與スルヲ要セス、故ニ通例ハ唯  
 之ヲ諸種ノ私會社ト同シク視做シテ、特ニ私權  
 利ヲ握ラシムルノミナリ、  
 禮拜ノ「ト」ニ就テモ亦同シ、邦土教會公然ノ禮拜



ヲ行フニ方リテハ、國家必十分ニ之ヲ保護スル  
 一、固ヨリ當然ナリ、凡、邦土教會ノ禮拜ニ於テハ、  
 國家當ニ其障碍妨害トナル者ヲ防拒スルノミ  
 ヲ以テ足レリト為ス可ラス、故ニ其祭日ニ方リ  
 テハ、縱令私人ニ屬スル事ト雖十分ニ着意眷顧  
 スルヲ當然トナス、例ハ齋戒祭イエルトハ、行フ  
 ノ日ニ方リテ、聒噪サロキ群鬧ヲ戒メ、歌舞宴飲ヲ停メ、  
 貿易賣買ヲ禁シ、及葡萄酒舖麥酒店ヲ嚴ニ鎖閉  
 セシムル等ノ一ハ、即國家其邦土教會ヲ特別ニ  
 保護セシカ為メニ施ス所ノ事務ナリ、

然ルニ異旨教會ノ如キニ至リテハ、唯其禮拜堂  
 ニ於テ公然ノ禮拜ヲ行フヲ許シ、而テ此禮拜ヲ  
 妨碍スル者アルキハ、國家之ヲ防制ス、去凡他ノ  
 教會ニ屬スル人民ト相對セル權利ニ至リテハ、  
 國家大ニ限制ヲ用フルヲ當然トス、例ハ異旨教  
 會ニハ打鐘カチラックヲ許サス、又其寺觀外ニ於テ巡行誦  
 經ヲ為スヲ許サ、ル等ノ如シ、○在昔ハ褊小狹  
 窄ノ心ヨリ、他教他派ヲ敵視スル一甚レカリシ  
 カ故ニ、此ノ如キ限制ヲ用フルヲ貴ヒシカ也、今  
 世ノ如キハ文明開化ノ時ナレハ、民人ノ妨害ト



ナルコノ外ハ、異旨教會ニモ亦自由權ヲ與ヘテ、  
 教化ヲ施サレムルヲ善トス、  
 然ルニ又國家外教〔按基督教ニアラ]及キ政黨ヲ保  
 護スルニ方リテハ、限制ヲ用フル更ニ大ナリ、凡  
 人々天良是非ノ自由ラゲキセンヲ具有スル  
 ハ、既ニ前ニ論スルカ如レト雖、又衆人相結テ教  
 道ニ從事スルノ自由ハ、決シテ直ニ此自由權ヨ  
 リ生シ来ルニアラス、故ニ諸家眷諸親族相結テ  
 一會社トナリ、以テ一教道ヲ奉スルハ、固ヨリ其  
 自由ニ任ス可レト雖、國家全ク之ニ着意眷顧セ

スレテ可ナルノ理ハ、決シテ之アル可ラス、凡、國  
 家ハ世事ヲ總管スルノ大權ヲ有スル者ナレハ、  
 常ニ此ノ如キ會社ニ注目シテ、其為ス所公衆ノ  
 為ニ利害如何ヲ探索考思スルノ權利ヲ握ルコト、  
 亦固ヨリ當然ナリ、○國家之ヲ探索考思スルモ、  
 未ダ曾テ其利害如何ヲ知ル能ハサレハ、姑ク此會  
 社奉教ノ自由權ヲ認許セサル可ラス、然ルニ若  
 此會社殆現時ノ政令ニ妨害アラサルモ、遂ニ國  
 家ノ存在及治安ニ妨害アルコト明瞭トナルキニ  
 至リテハ、國家ハ或ハ會社ヲ禁止シテ解散セシ



又、或ハ其景況ニ隨テハ、全ク之ヲ禁止セサルモ、  
 特ニ嚴密ニ其為ス所ヲ監督シ、及、大ニ此會社ノ  
 權利ヲ限制スルヲ固ヨリ其當然ノ權ト云フ可  
 シ、○傳教ヲ全ク禁止スルト、自由ニ之ヲ認許ス  
 ルトノ中間ニ數階級アリ、例、ハ家眷親戚唯其家  
 内ニ於テ、敬神禮拜ヲ行フヲ許ス、及、會社ヲ結  
 テ禮拜ヲ為スヲ許スモ、唯寂靜ニ之ヲ行ハシム  
 及、他教他派ヲ奉スル者ノ共ニ其處ニ到ルヲ禁  
 スルヲ、及、公然ノ敬神禮拜ヲ許スモ、敢テ洗禮盟  
 禮等ノ如キ教會ノ處分ヲ施スヲ許サス、或ハ其

他民事ニ係ル處分(禮) 禮拜堂ニ於テ婚姻ノ  
 施スヲ許サ、ル等ノ如キ  
 一ニノ國ニ於テハ、輒近ニ至リテ公然ノ禮拜ヲ  
 許スヲ一般ノ通則ト為シ、而テ外教會及、政黨ニ  
 モ亦之ヲ許スヲトナシタリ、蓋、此大ナル自由權  
 ヲ許スハ、實ニ基督國方今ノ開明ニ適スル者ト  
 云フ可シ、但、縱令、國家此自由權ヲ許スモ、唯其欲  
 スル所ニ任レテ全ク監督検査セズ、且、外教會及、  
 政黨ヲ以テ、邦土教會ト絶テ差等ナキ者トスル  
 ハ甚不可ナリ



〔第四〕國家邦土教會ノ為ニ、盡力從事スル所ノ諸件、左ニ舉グルカ如ク

〔甲〕邦土教會國家ノ救助ヲ要スル事ニ就テハ、國家其財ヲ以テ教會ノ費用ヲ償フ、即寺觀堂宇ヲ造營シ、及之ヲ粧飾シ、教會ノ職官ヲ設置シ、教會ノ學校ニ要スル費用ヲ償ヒ、及傳教師ヲ救濟ス、但、國家ハ他ノ教會ヲモ同レク補助救濟スルノ權ナキニハアラサレズ、此教會ハ敢テ之ヲ請求スルノ權ナシ、○基督國ニ於テハ、方今必、外教ノ存在ヲ認許スト雖モ國家ノ最モ好テ心ヲ用フ

ルハ、實ニ人民ノ為ニ偉功ヲ奏シタル基督教ニ限ルノミ

〔乙〕國家自ラ教會ヲ尊敬シテ之ニ榮光ヲ與フ、即國家教會ノ頭領ヲ尊敬シ、且、國家自己ノ法制ヲ設ケ、及、大政令ヲ施行スルニ方リテ、教會ノ祭典ヲ請願スルヲ等ヲ云フナリ、○教國ニ會社ヲ分畫セル國ニ於テハ、國家敢テ教會ニ祭典ヲ命スル能ハス、唯之ヲ教會ニ請願スルヲ得可ク、而テ教會ハ自己ノ意ヲ以テ其請願ニ應スルヲ得可シ、蓋、教會ノ自己ノ意ヲ以テ行ヘル祭典



ニアラサレハ、決レテ真ノ祭典ト称スルニ足ラ  
ス、

〔丙〕公衆ニ係レル事件ニ於テ、教會ノ共議補助ヲ  
請求ス、例ハ、學校ノ制度或ハ公衆ノ風儀行狀ニ  
係レル規律ヲ商議スルニ方リテ、先ッ教會官吏ノ  
議ヲ聽ク等是ナリ、

〔丁〕邦土教會ノ權利及利益ヲ保護スルカ為ニ、此  
教會ヲシテ國家ノ立法權ニ參預セシム、殊ニ其  
代議者ヲ立法府ニ派出セシムルカ如キ是ナリ、

第七款

監督ノ權利 〔按〕教會ヲ監督スルノ

權利ナリ

國家ト教會トハ、二個ノ真ニ獨立セル會社ナリ、  
是故ニ國家若自ラ教會ノ政令ヲ施行スルカ如  
キハ、即其當然ノ權域ヲ超過スル者ト云フ可キ、  
往昔波羅特士旦派ヲ主派トナセシ國ニ於テハ、  
國家盛ニ此ノ如キ權ヲ施行シタリキ、但國家唯  
教會ノ政令ヲ監督スルカ如キハ、即其當然ノキ  
ルヘンホーハイトナル權利ノ樞要部分ヲ施行  
スル者ナレハ、全ク其權域内ノ處分ト云フ可キ、



○但、國家ハ敢テ教會ノ幽冥事〔按即精神靈魂ニ係レル事ヲ云ス、ニ關係スルノ權ナケレハ、亦決シテ此事ヲ監督スルヲ得ス、唯其顯明事〔按教會ノ法制政令等、總テ外貌ニ顯ハル、ヲ云、ヲ監督スルヲ得ルノミ、凡、外貌ニ發スル顯明事ノ如キハ、教會ニ於テハ一大要事ト稱スルニ足ラス、但、決シテ缺ク可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟タスト雖、此事殊ニ國事ニ關係ヲ生スル少ナカラサレハ、國家ハ此事ノ得失利害ニ充分着意シテ、嚴ニ之ヲ監督スルノ權ヲ握ルヲ要ス、○但、此事ニ就テモ、教國ニ會社ノ權ヲ適宜ニ分割スルヲ甚

緊要ナリ、蓋然セサレハ、各會社ノ當然ニ具有スヘキ自由及權利、共ニ全キヲ得難ケレハナリ、  
 『第二』心靈ニ屬スルヲ及信仰ニ係ルヲハ、實ニ教會ノ掌ル可キ所ニシテ、國家ハ決シテ之ニ關係スルノ權ナケレハ、敢テ此事ニ容喙ス可ラス、是故ニ國家恣ニ教會ノ教旨ニ係レル爭論ヲ、裁判セント欲スルカ如キハ、決シテ許ス可ラス、但、教會若、教事ニ就テ、新ニ憲法規律ヲ示令スル片、若、ハ教務ノ決議ニ就テ、嚴法ヲ設クルヲ要スル片等ニ於テハ、國家必、教會ヲシテ是等ノ處分ヲ報知



セシメ、而テ是等ノ處分若クモ國家法制ノ妨害トナ  
 ルヲ知ラハ、則チ之ヲ防阻スルノ權アリ。○國家此  
 防阻ヲ施スノ權利ニプラセー〔我准許スルトノ〕否トノ權利ノ  
 名ヲ命シテ、之ヲ國法ニ屬スル權利ノ部ニ加入  
 以テ而テ動モスレハ國家此權利ヲ非常ニ擴張シ  
 タリ、但此權利ニプラセーノ名ヲ命スルハ甚誤  
 レリ、蓋此誤謬タルヤ、宛君主ノサンクチオンノ  
 權利〔我〕立法府ノ議定ヲ或ハ准許シ、ヲ誤認シテ、  
 唯ハトノ權利〔我〕立法府ノ權ノ議定ヲ禁ト視做ス者  
 ト、全ク相表裡セル誤謬ナリ、何者國家タル者、教

會ノ處分ヲ防阻スルノ權利ハ、教會ノ議定ヲ或  
 ハ准許シ、或ハ准許セサルノ權利ニハアラス、唯  
 教會ノ處分ノ國家ニ妨害アル者ヲ防阻スルノ  
 ミノ權利ナレハナリ、是故ニ國家此防阻ノ權利  
 ヲ施行スルハ、必ス憎惡ノ情ヨリ出ル者ナリ。○教  
 會ト雖亦同シク人ナレハ、自ラ神聖ノ如ク十全  
 完備ヲ得ル能ハス、且ツ動モスレハ私欲發動シテ  
 遂ニ教權ヲ弄シ、以テ大ニ國家ノ治安及私人ノ  
 權利ヲ妨害スルニ足ル可キ處分ヲ施スノ恐レ  
 アリ、加特力教會ノ首長ナル教皇ハ、他教官ノ如



ク國家ノ臣民タル者ニアラス、其國家ノ司法權ニ制セララル、者ニアラサルカ故ニ、動モスレハ其大權ヲ恃テ專恣ノ事ヲ為スノ恐ナキヲ能ハサルヲ以テ、在昔歐洲ノ數國ニ於テ、國內ノ教徒等ト教皇ノ屬官トノ公事ノ交際ハ、國家必自ラ監督警視スルヲ常法トナセリ、然ルニ近世ニ及ヒテ多クハ此法ヲ全ク廢止スルニ至レリ、近世ニ及ヒ國內ノ教徒ト教皇ノ屬官ト、自由ニ公事ノ交際ヲ為サシムルニ至リシハ、前條論スルカ如シト雖、國家タル者敢テ教會ノ憲法及議

定テ、聽知監督セシテ可ナリト云フノ理ハ、決シテアル可ラス、國家必之ヲ聽知監督セサル可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟タス、去レ其法自ラ古時ノ法ト相異ナル所アリ、蓋古時ハ教會其憲法ヲ議定セント欲スルヲアルニ方リテハ、國家先預メ其得失利害ヲ監督シテ、而後ニ之ヲ准許スルノ法アリシカ氏、今時ノ法ニテハ全ク教會ニ屬スヘキ事件ハ、教會ノ意見ヲ以テ直ニ之ヲ議定スルノ自由ヲ教會ニ任シテ、國家ハ關セス、唯教會若其權ヲ弄シテ不正ノ事ヲ為スルハ、國家必手



ヲ下シテ之ヲ防阻スルノ權アリト為ス、是故ニ  
 古時ハ預防法ヲ用ヒレニ、今時ハ之ヲ變シテ禁遏  
 法ヲ用フルトナセシナリ、○古時ノ預防法  
 ハ、國家ノ制馭ヲ受ケサル教皇政府トノ覺隙ヲ  
 生シ易キ法ナリシカ故ニ、今時ハ此法ヲ廢シテ、  
 禁遏法ト為セシカ也、此法ヲ用フルキハ、動モス  
 レハ國家ノ患害ヲ生スルノ恐ナキ能ハサルヲ  
 以テ、此法ヲ用フルニ就テハ、必、教會ノ弄權ヲ制  
 ス可キ綿密ノ規律ヲ設ケ、而テ教會若、此規律ニ  
 背ク片ハ帝ニ之ヲ赦宥セサルノミナラス、或ハ

之ヲ罰スルヲモナカル可ラス例、ハ古時ノ檢書  
 法（按）書籍ヲ公布セシト欲スル者、  
 先、政府必、之ヲ檢査レテ、可トスレハ其  
 公布ヲ許シ、不可トスレハ廢シテ、出版ノ自由  
 許サ、ルヲ得ルノ法ナリ、  
 一、就テ出版憲法ガ、  
 一、甚、緊要トナリレト、其理全ク相同シ、○凡、國家  
 ノ教會ニ准許セル自由權愈、大ナレハ、教會ノ弄  
 權ニ係レル罪犯ヲ治ムル憲法愈緊要トナル、  
 一、決シテ疑フ可ラス、然ルニ或ハ此罪犯ヲ治ムル  
 一、ニ就テモ、近今ノ尋常憲法ヲ以テスレハ、則、足レ  
 一、リト云フ論アレ、氏、是、甚、誤レル者ト云フ可シ、凡、



教會ト國家トノ關係、及<sub>レ</sub>教道ト民事トノ交感ハ、實ニ大ニシテ且<sub>レ</sub>全ク他事ト旨趣ヲ異ニスルヲ、真ニ人意ノ表ニ出ツ、是故ニ唯一個人及<sub>レ</sub>公眾ノ權利并ニ自由ヲ、確定限制スル所ノ尋常一樣ノ憲法ヲ以テ、全ク此關係交感ヲ制セント欲スルモ、決シテ能クスヘキニアラス、○近今ノ國家ハ、既ニ教道ノ門派ヲ拘執スルヲ貴シトセサルニ至レリ、然ルニ方今ノ教會多クハ未タ曾テ其門派ヲ拘執スルノ心ヲ去ル能ハス、是故ニ國家ハ先<sub>レ</sub>諸教會ノ互ニ其門派ヲ拘執シ及<sub>レ</sub>其教旨ヲ主

張シテ、相是非スルノ自由權ヲ認許セサル能ハスト雖<sub>レ</sub>、決シテ全ク其自由權ニ任ス可ラス、動モスレハ各教會ノ爭論ヨリ遂ニ國家ノ安寧ヲ害シ及<sub>レ</sub>國家ノ保護ニ由テ得タル教會ノ躰面ヲ汚スニ至ルヲアルカ故ニ、國家常ニ諸教會ヲ警視シテ、互ニ爭論ヲ生スル甚<sub>ク</sub>シキニ至ラサラシム可シ、是即<sub>テ</sub>國家ノ權利ナリ及<sub>レ</sub>義務ナリ、例ハ教義問答書等ニ於テモ、亦各教會互ニ自己ノ教義ヲ是トシ、他ノ教義ヲ非トスルカ如キヲアリ、國家宜シク之ヲ警視ス可シ、何者一個人其著書ニ於



テ、專ラ一門派ヲ拘執シテ其是ヲ主張シ、而シテ他ノ門派ヲ譏謗スルカ如キハ、大害アラスト雖、教會自ラ暴權ヲ以テ、大イニ他ノ教會ヲ憎惡スルノ所為ヲ施シ、或ハ教旨ヲ以テ民人ヲ煽動シ、以テ國家ノ命令ニ抗衡セント欲スルカ如キ「方今比耳時バードン及、墾地利ニ於テ此ノ如キ「アリ」ハ、其害甚大ナレハナリ、總テ此ノ如キ所為、公眾ノ平和及、安寧ヲ妨害スル愈、大イナレハ、國家ノ之ヲ防制スルモ、亦宜シク愈、速ニ且、愈、嚴ナル可シ

①〔按〕古時ハ教會ノ未、憲法ヲ議定セサルニ方、國家預、其得失利害ヲ論シテ、其許ス可キト否ラサルトヲ定ムルノ法アリシカ故ニ、之ヲ預防法ト稱セシカ、今時ハ國家預、利害得失ヲ論スル「ナク、唯教會ノ議定セシ後ニ至リテ、不正ノ事アレハ、之ヲ禁遏スルノ權ヲ有ス、故ニ禁遏法ト云フナリ、

〔第二〕敬神禮拜ニ係レル事件ヲ處置スルモ、亦全ク教會ノ權ニ在ルヘキ「固ヨリ當然ナリ、或ハ宜シク教國ニ會社相合併シテ、此事件ヲ處置ス



可レト云フノ論アレ、甚、非ナリ、但、此事件ハ生  
 平外貌ニ顯ハル、ナナルヲ以テ、殆、國務ニ類似  
 シ且、國務ト相近接スルヤ、彼、心靈ニ属スル事、及、  
 信仰ニ係レル事コリモ更ニ大ナリ、  
 敬神禮拜ニ係レル事件ハ、必、先、教會ノ處分ニ任  
 ス可シ、國家ハ殆、此事ノ規律ニ関ス可ラス、但、教  
 會ノ此事ヲ處置スルノ得失ニ由テ、國家ノ為ニ  
 大ニ利害ヲ生スルコトアルカ故ニ、國家ハ最モ嚴  
 ニ此處分ヲ監督セサル可ラス、其監督ノ方法ハ、  
 即、左ノ數件ニ舉ルカ如シ、

〔甲〕教會祭典ヲ行フニ方リテ、民人ノ職業ヲ停止  
 シ、市賣ヲ禁制スル等、民人ニ係レル事ヲ指令ス  
 ルト否トハ、全ク國家ノ權ニ在リ、

〔乙〕敬神禮拜ノ為ニ、會社、義會ヲ結ビ、及、傳教師ヲ  
 派出スル等ノコトハ、國家大抵之ヲ教會ノ權ニ委  
 子テ自ラ關スルコトナシ、但、國家ハ教會ヨリ此等  
 ノコトヲ報知セシムルノ權ヲ握ルハ、固ヨリ當然  
 ナル可ク、加之此ノ如キ會社等、若、國家或ハ臣民  
 ノ躰面及、權利ヲ妨害シ、并ニ公衆ノ平和及、風儀  
 ヲ毀傷セント欲スルコトアルハ、則、此會社ノ權



利ヲ限制シ、或ハ時アリテハ其結合ヲ禁止スルノ權、全ク國家ニ在ル可シ、

〔丙〕寺觀ヲ築造シ、及ヒ教道ノオルデン〔按〕會社ヲ建

立スルヲ、并ニ此寺觀及ヒオルデンニ於テ制定ス

ル所ノ規律ヲ准許シ、及ヒ總テ其所為ヲ監視スル

ヲ等ハ、必先ッ教會ノ權ニ在リ、然ルニ近世ニ至リ

テハ、歐洲各國ノ政府動モスレハ恣ニ是等ノ事

ニ關係シ、而テ却テ暴ニ寺觀及ヒオルデンノ所有

ヲ劫奪スルヲ謀リタリ、○但レ國家此事ニ關係

シテ、大ニ諸弊害ヲ除去セシ功モ亦少カラズ、蓋

國家古今ノ事蹟ヲ視テ、寺觀及ヒオルデンノ弊害

ヲ察セシカ故ニ、專ラ之ニ着目注意シテ、其弊害

ヲ防阻セサル可ラサルノ義務ヲ悟リ、專ラ之ニ

従事セリ、蓋、從來民人禮拜祈禱ノ式ヲ遵守シ、及

教會ノ規律ヲ敬守セサル可ラサルカ為、大ニ

其一個ノ自由權ヲ妨害セラレレニ、國家特ニ意

ヲ用ヒテ此弊害ヲ除去シ、又從來寺觀及ヒオルデン

ニ等、其近隣ニ於テ巨大ノ土田ヲ併セテ之ヲ所

有ト為シ、以テ其遊食ノ財本ニ充ツルヲアリシ

ニ、〔按〕教會暴ニ巨大ノ土田ヲ奪フニハアラサ

國ニ、〔按〕教會暴ニ信者ノ心ヲ得テ之ヲ奪フトリ、



家嚴ニ之ヲ禁止シ、并ニ右ノ會社等從來國家ノ  
 法制ニ背キ、其權ヲ恣ニセント欲スルヲアリシ  
 ニ、復々全ク此恣行ヲ壓制スルヲニ勉勵シタリキ、  
 ○國家ノ法制ニ背キ其權ヲ恣ニセント欲スル  
 會社、今時仍今、ハエリス、例ハエリスイテンオルデ  
 ン〔按〕一〔按〕加持力教會ノ如キ是ナリ、此會社ノ如キハ、  
 其教學及勉力ヲ以テ、中古ノ如ク全ク國家ヲ抑  
 制セント欲シ、且、專、自己ノ門派ヲ張リ、他ノ門派  
 ヲ壓セント欲シテ、大ニ諸派ノ平和ヲ傷害スル  
 ニ至ル、但、國家自己ノ氣力ノ剛壯ナルヲ知ラハ、

此ノ如キ會社ノ權勢ヲ恐怖スルヲ、絶エテ無カル  
 可シ、例ハ、ハフリドドリヒ、デルゴロトセ〔按〕普魯士  
 ノ如キハ、敢テエリスイテンオルデンノ權勢ニ  
 畏縮セサリキ、然ルニ國家ノ氣力微弱ニシテエ  
 リスイテンオルデンヲ恐怖スルヲ甚クシキニ至  
 ル片ハ、動モスレハ自己ノ權利ヲ忘失レテ、遂ニ  
 自己ノ勢カヲ以テ、全クエリスイテンオルデン  
 ノ權カニ抗衡スル能ハサル者ト為スニ至ルナ  
 リ、○但、若、エリスイテンオルデンノ權勢完全整  
 備シ、且、其材能高博及、財本富實ニシテ、能ク陰ニ



民衆ノ心ヲ得ルキハ、遂ニ能ク國家ノ患害ヲ釀  
 シ、其文明ヲ害スルカ故ニ、國家ハ必預<sub>エ</sub>ス  
 テン<sub>ニ</sub>オルデンニ着目注意シテ、若<sub>シ</sub>此ノ如キ景況  
 現ハル、ヲ見ルキハ、嚴ニ之ヲ防阻スル<sub>ヲ</sub>、宛<sub>モ</sub>狡  
 猾ナル蛇ヲ防クカ如ク為ス可シ、凡<sub>ソ</sub>國家ハ自己  
 ノ安寧及<sub>シ</sub>自己ノ權利ヲ障害スル會社アルヲ知  
 ラハ、斷然之ヲ毀壞崩解スルノ權利ヲ握ル、固ヨ  
 リ疑フ可<sub>キ</sub>ニアラス、<sub>○</sub>エ<sub>ー</sub>ス<sub>イ</sub>テン<sub>オ</sub>ル<sub>デ</sub>ンノ  
 如キハ、教會ノ為ニハ實ニ身命ヲ抛テル忠臣ナ  
 リ、故ニ教會ハ專ラ之ヲ愛慕スト雖<sub>モ</sub>國教會ヲ設

立セサル國ノ為ニハ、動モスレハ實ニ憎惡スハ  
 キ仇敵ノ如クナル<sub>ヲ</sub>アリ、凡<sub>ソ</sub>國家ハ自ラ此ノ如  
 キ會社ノ制度規律ヲ設定スルノ權、若<sub>シ</sub>ハ是等ノ  
<sub>ヲ</sub>ニ就テ、教會ノ商議ニ預カルノ權ヲ握ル<sub>ヲ</sub>ナ  
 シト雖<sub>モ</sub>會社若<sub>シ</sub>教會ノ為ニスルノ名義ヲ以テ、國  
 家ノ權利ヲ毀害損傷スル<sub>ヲ</sub>アルニ方リテハ、嚴  
 ニ之ヲ拒防スル、固ヨリ當然ナリト云フ可シ、  
 ○瑞<sub>士</sub>合<sub>邦</sub>大<sub>憲</sub>第<sub>五</sub>十<sub>八</sub>章ニ云、<sub>「</sub>エ<sub>ー</sub>ス<sub>イ</sub>テ  
 ン<sub>オ</sub>ル<sub>デ</sub>ン<sub>ニ</sub>及<sub>シ</sub>之<sub>ト</sub>相<sub>結</sub>ヘル會社ハ、瑞<sub>士</sub>合<sub>邦</sub>  
 ノ内何レノ地ニ於テモ存在スルヲ許サスト、



『第三』教會ノ大憲ヲ確定スルノ權モ、亦元來教會ノ自ラ掌握スル所ナリ、故ニ國教會ヲ廢セシ國ニ於テハ、既ニ此ノ如キ權ヲ以テ、國家ノ掌握ス可ラサル者ト為シ定メタリ、但、若、此大憲國家ノ認許ヲ得サルキハ、決シテ實地ニ行ハル可ラサルヲ以テ、必、國家ノ權ヲ假ラサル可ラス、蓋、國家自ラ此大憲改革ノ議ヲ檢査シテ、若、之ヲ禁止セサルキハ、始、テ真實ノ大憲トナルナリ、(但、國家取テ此大憲ノ教旨ニ合スルヤ否ヲ檢査スルノ權ナシ、唯或ハ現存ノ國法ニ抵觸シ、或ハ公衆ノ安

寧ヲ妨害スルヲナキヤ否ヲ視テ、若、是等ノ患害アルハ、其制定ヲ禁止スルノ權アルノ事) ○從來國家此教會大憲上ニモ、彼プラセリ前ノ『第二』ノ強權ヲ施シ、加之此強權ヲ施スニ就テハ、陰ニ教會政令ノ一分ニモ預カリシカ、近今漸、此強權ヲ棄テ、之ニ代フルニ唯教會大憲ノ制立改革ヲ預、檢査スルノ權ヲ以テシ、而、テ其大憲若、國家ノ為、ニ不可ナル者アル時ノ之ヲ禁止スルヲトナリシハ、蓋、教國ニ會ノ關涉ニ最モ適當セル者ナラシ、



〔第四〕教會ノ官吏臣僚〔按即教官ナリ〕ヲ任用スルノ權利モ、亦教會ノ掌中ニ在ルヘキヲ固ヨリ疑フヘキニアラス、蓋是等ノ徒ハ皆教會ニ屬シテ、其用ニ役事スル者ナレハ、必ス教會ニ必要ナル精神ヲ具有シテ、全ク他會〔按蓋國家ニ屬スル者ト相異ナル所ナカル可ラス〕ニ屬スル者ト相異ナルニ就テハ、必ス其力ニ由テ其可否ヲ定ムルノ規則アリト雖、唯此規則ノミニテハ未足レリト為ス可ラス、殊ニ教會ノ用ニ適スヘキ人物ノ中ニ於テ、其所長ニ從テ其職務ヲ授クルハ、固ヨリ教

會ノ權中ニアリ、○但、教會ノ事ト國家ノ事トハ、密ニ相繋合スルヲ多ク、且、邦土教會等ノ官吏ハ、兼テ國家官吏ノ權利及等階ヲ受領シテ、國家ノ優待ヲ得ルヲ多キカ故ニ、教會ハ苟〔モ〕國家ノ好セサル徒ヲ舉ケテ、其官吏ト為サ、ルヲ良好ト為ス可ク、且、國家ハ教會ヲシテ、未實ニ其官吏ヲ授任セサルニ方リテ、先、其氏名ヲ告示セシメ、以テ之ヲ許可スルノ權アリ、○但、歐洲各國古今ノ因襲ニ隨テ、此條理ニ反セル規律數種アリ、例ハ或ハ國家教會官吏ヲ撰任スルノ全權ヲ握リテ、教



會ニハ僅ニ其撰任ノ當否ヲ檢査シ、及ヒ教官タルノ爵位ヲ授クルノミノ權ヲ與フル國アリ、或ハ教會敢テ國家ノ檢査ヲ受ケスレテ、專ラ自由ニ其官吏ヲ授任スルノ國アリ、〔按〕二種ノ規律ハ、共に而テ殊ニ甲ノ制度〔按〕國家專ラ教會官吏ノ如キハ、仍ハ國家自ラ教會ノ政令ニ關スルヲ證スルニ足ル者ト云フ可シ、但、將來教國ニ會相分レテ、互ニ自己ノ自由及權利ヲ握ルニ至ラハ、此ノ如キ制度ハ必廢止セサル可ラス、

〔第五〕現世國ニ於テ正義公直ヲ守護スヘキ劍及

鞭ト称スヘキ真誠ノ司法權ハ、全ク國家ニ屬スヘキト固ヨリ當然ナリ、故ニ獨リ國家之ヲ掌管ス可シ、但、教道ノ旨ニ出ツル懲戒ノ法、及ヒ唯教會ノ制度ヲ保護スルカ為ニ施ス可キ懲戒法ノ如キハ、當然教會ノ掌ルヘキ者ト云フ可キノミ、故ニ教會是等ノトニ於テ、若シ司法權ヲ施ストアルモ、國家ハ此權ヲ制定シ、且之ヲ改革シ之ヲ限制シ、或ハ全ク停止スルノ特權ヲ握ルナリ、但、教會ノ司法權ヲ施スヤ、或ハ唯互相和約ノ事〔按〕八卷第三款出ツニ關スルニ過キス、或ハ私判ノ法〔按〕八卷第三款



〔第二〕ニテ用フルニ過キサレハ此例ニアラス、○  
 出ツ  
 既ニ今時ハ各國此特權ヲ用ヒテ屢之ヲ施行セ  
 リ、蓋、教會ノ施刑權ヲ限制シ、且、教會ノ司法權ヲ  
 以テ之ヲ國家ノ司法權ニ屬スル者ト定メシヨ  
 リ以來ハ、教會純一ニ神道ノミヲ掌ル者トナリ  
 テ、真ニ教會ノ教會タル所以ニ協フ者トナリタ  
 リ、  
 加特力教會ニテ悔罪ノ法ニツテト稱スル者ハ、  
 其始ハ全ク懲戒法ニ類セル者ニシテ、決シテ罪  
 犯ノ刑法ニハアラサリキ、蓋、此法ハ自己ノ過失

ヲ悔悟セル者之ヲ贖フカ為ニ自ラ好テ喫苦ス  
 ル者ナリキ、〔按〕數日間某食物ヲ禁  
 バン〔按〕教罰モ亦其始ハ、蓋、基督教ノ懲戒法ナリ  
 シカ、國家全ク教會ノ管下ニ屬スルカ如クナリ  
 シヨリ、始テ刑罰法トナリタリ、○凡、教旨ニ背ケ  
 ル者アルハ、教會唯其者ノ為ニ天上ノ幸福ヲ祈  
 願スルヲ拒ミ、或ハ唯之ヲ其門徒ヨリ放逐スル  
 カ如キハ、教會ノ當然施スヘキキルヘンバンニ  
 シテ、決シテ國家ノ正義公直ヲ守護スルノ務〔按〕  
 家ノ刑罰ヲ施スハ、即チ正義公直ト云フ可ラス蓋  
 ヲ守護スルノ務ヲ行フナリ、



教會ハ其門徒ノ實ニ教旨ヲ遵奉スルト否トヲ  
 監視シテ、某ハ實ニ教旨ヲ遵奉スレハ、宜ク為ニ  
 天上ノ幸福ヲ祈願スヘク、某ハ實ニ教旨ニ背反  
 スレハ、宜ク為ニ之ヲ祈願セサル可シト考定シ  
 且、某ハ教會ノ道ヲ毀傷シケレハ、宜ク之ヲ其門  
 徒ヨリ放逐スヘシト決定スルノ權ヲ握ル、固ヨ  
 リ當然ナレハナリ。○但、教旨ニ背テキルヘシバ  
 ンヲ被ル者アルキハ、遂ニ國家其者ヲシテ終身  
 其私權利ヲ失ハサラシメンカ為ニ、必之ヲ看護  
 セサル可ラス、且、教會當然此罰金ヲ握ルト雖、若

一時瑣末ノ罪ニモ妄ニ此罰ヲ加フルキハ、遂ニ  
 民人ノ權利ヲ傷害スルニ至ル必然ナレハ、決シ  
 テ輒ク施行スルヲ得サルハ、固ヨリ論ヲ俟タス、  
 去レテ實ニ教國ニ會ヲ分畫スルノ制度アルキハ、  
 此罰ヲ施スノ權ハ、必先、教會ノ掌中ニ在ルヘキ  
 一、亦固ヨリ辨ヲ俟タス、○并ニ教會モ亦諸官司  
 等ト同シク、自己ノ官吏臣僚ヲ懲戒スルノ權ア  
 リ、官吏臣僚若、其職務ヲ怠リ勤勉セサル時ハ、教  
 會必之ヲ退黜シ、他人ヲ撰舉シテ之ニ代ハラシ  
 メサル可ラス、但、教會或ハ黜陟ヲ恣ニシテ、一個



人ノ權利ヲ壓抑損害スルノ恐<sub>レ</sub>ナキ能ハス、故ニ  
 國家ハ宜<sub>ク</sub>常ニ教會ヲ監督スルノ權ヲ握ル可  
 シ、而<sub>シ</sub>テ其監督ノ方法一ナラス、例<sub>ハ</sub>或ハ教會教  
 務ノ關係ニ由<sub>テ</sub>、其官吏ヲ退黜セント欲スル<sub>ト</sub>  
 アル毎ニ、國家必<sub>ズ</sub>教會ヲシテ之ヲ己ニ報知セシ  
 ヌ、以<sub>テ</sub>自ラ其可否ヲ述告スルアリ、或ハ既ニ退  
 黜セラレタル官吏ニ、宛<sub>テ</sub>國家ニ告訴シテ、其保  
 護ヲ願<sub>フ</sub>ノ權利ヲ授與スルアリ、

〔第六〕國家ハ邦土教會ノ為<sub>ニ</sub>、自ラ學校ヲ建造シ、  
 或ハ其費用ヲ給與シテ、以<sub>テ</sub>教徒ノ學習ヲ勸誘

ス、但<sub>シ</sub>教徒學習ノ為<sub>ニ</sub>設<sub>ル</sub>所ノ學校、縱令<sub>ヒ</sub>國家ノ  
 建造ニ係ルモ、實ニ此學校ヲ獨<sub>リ</sub>教會ノ用ニ適ス  
 ヘキ者トナスノ權、并ニ教會ノ官吏タルニ堪<sub>フ</sub>  
 ヘキ人物ノミヲ擢<sub>テ</sub>、此學校ノ神道教師ト為ス  
 ノ權ハ、固ヨリ教會ノ掌中ニ在ル可シ、○但<sub>シ</sub>教會  
 自ラ教徒學習ノ為<sub>ニ</sub>、學校〔所謂教徒學校<sub>ステリ</sub>〕  
 〔セル<sub>ナ</sub>〕ヲ建造スル<sub>ル</sub>ニ於<sub>テ</sub>ハ、國家ハ必<sub>ズ</sub>教會ノ  
 教育ニ着意シテ、其方法實ニ少年生徒ノ心志ヲ  
 シテ、全<sub>ク</sub>國家ノ法制ニ背カサラシムルニ足ル  
 ヤ否ヤ、且<sub>シ</sub>其教育帝ニ神道上ノ<sub>ニ</sub>止マラス、俱



ニ現世國ノ用ニ適スヘキ學科上ニモ及ホシテ、  
 實ニ生徒ヲシテ帝ニ賢明ノ教士トナラシムル  
 ニ足ルノミナラス、必<sub>ス</sub>兼テ善良ノ國民トナラシ  
 ムルニ足ルヤ否ヲ監督シ、而<sub>テ</sub>國家若<sub>シ</sub>是等ノ  
 ニ於テ不可アルヲ知ラハ、必<sub>ス</sub>之ヲ改革セシムル  
 ノ權アリ、○方今加特力教派ノビシク官按高カ為  
 ス如ク、單ニ神道ノミヲ以テ、少年ノ教徒ヲ教育  
 スルキハ、遂ニ成人ノ齒ニ届ルト雖<sub>モ</sub>殆<sub>ト</sub>世事ヲ解  
 スル能ハサル者トナリ、且<sub>ツ</sub>其精神才智遂ニ穎敏  
 ノ力ヲ失ヒ、全ク魯鈍ノ者トナルニ至ル可シ、但<sub>シ</sub>

ビシク<sub>フ</sub>斯<sub>ク</sub>神道ノミヲ以テ、少年ノ教徒ヲ教育ス  
 ルキハ、此徒ノ敬神ノ志ハ益<sub>ニ</sub>深厚トナル可シト  
 雖<sub>モ</sub>之<sub>レ</sub>カ為<sub>ニ</sub>遂ニ世事ヲ解セサル魯鈍物トナル  
 カ故ニ、自<sub>ラ</sub>民人ノ信仰ヲ失テ、殆<sub>ト</sub>教化ノ務ヲ盡  
 ス能ハサルニ至ル可シ、是<sub>レ</sub>即<sub>チ</sub>得失共ニ存スト雖<sub>モ</sub>  
 蓋<sub>シ</sub>得<sub>レ</sub>決<sub>シ</sub>テ失<sub>フ</sub>償<sub>フ</sub>ニ足ラサルナリ、是ニ於テ  
 教徒學校ヲ評スルニ適切ナル語アリ、曰<sub>ク</sub>汝ハ風  
 ヲ播種シタリ、必<sub>ス</sub>暴風ヲ収獲スルニ至ル可シ按  
言ハ、遂ニ暴風ノ如クナル可シト雖<sub>モ</sub>生徒ノ得業ト、  
 第七<sub>ノ</sub>教會ノ所有ハ、教會ノ用ニ充ツルカ為<sub>ニ</sub>教會



ニ授與セラレタル者ナレハ、全ク教會ニ屬シテ、  
 決シテ國家ニ屬セス、是故ニ國家ハ此所有ヲ以  
 テ、敢テ自己ノ所有ト為スノ權ナク、且、敢テ之ヲ  
 自己ノ用ニ充ツルノ權ナキハ、固ヨリ當然ナリ、  
 去レ此所有ノ管理ヲ以テ全ク教會ニ任スヘキ  
 ヤ、將<sup>ハ</sup>國家自ラ教會ヲ看護シ、之ニ代ハリテ其所  
 有ヲ管理スヘキヤノ議論ニ至リテハ、古來未曾  
 テ一定ノ說アラズ、○加特力教會ノ如キハ、古來  
 自ラ其所有ヲ管理スルヲ緊要ノトト為セシト  
 雖<sup>モ</sup>、輓近ニ至リテハ、國家自ラ教會所有ノ事務ニ

関スルヲ緊要トシテ、大ニ教會ノ權ヲ限制シ、以  
 テ教會所有ヲ監督スルトトナリシカ故ニ、教會  
 此事ニ於テハ、已ムヲ得ス國家ノ指令ヲ受クル  
 ニ至レリ、然ルニ波羅特士旦教會ノ如キハ、自己  
 ノ現世ニ於テ得タル所有〔按〕永遠不滅ノ天國ニ  
 対シテ云フナリ、天國ノ所有トハ、〔按〕永遠不滅ノ天國ニ  
 即、天上ノ安樂幸福ヲ云フ、〔按〕永遠不滅ノ天國ニ管理スルノ權ハ、  
 古來全ク國家ニ委託シ、而テ偏ニ國家ニ依頼シ、  
 テ、其所有ノ看護ヲ請願シタリ、去レ今時ニ在リ  
 テハ、教會ノ所有ハ、必先<sup>ク</sup>教會ノ管理處分ニ任シ  
 テ、國家ハ唯其管理ノ方法及、其増産ノ景況ヲ監



視之、而テ教會若他事〔按〕教務ニ屬セニ於テ浪費ヲ為ス、〔按〕アル片ハ、必之ヲ禁止スルノ權ヲ握ルノ法ヲ立ツル、〔按〕最モ緊要ナル可シ、

〔第八〕凡、學校ニ於テ幼童ヲ教導スル、或ハ成人年齒ニ届ルル男女ノ婚媾ヲ為ス、〔按〕等ハ、教團ニ會ノ俱ニ最モ關係スヘキ者ナリ、是故ニ國家ハ宜シク此等ノ事ヲ監督スヘク、教會ハ宜シク此等ノ事ヲ眷顧ス可シ、但、是等ノ事件上ニ於テ、國家ノ權ト教會ノ權トヲ分別スルハ實ニ難シ、若此二權ヲ全ク離分セント欲スル片ハ、恐ラクハ

甚、害アル可シ、蓋、教團ニ會相結ヒ相謀リテ從事スルニアラサレハ、決シテ奏功アル可ラサレハナリ、○學校教導ノ、〔按〕就テハ、殊ニ下款ニ於テ論ス可シ、婚媾ノ、〔按〕既ニ論說セリ、〔按〕卷ノニ、〔按〕第十款ヲ參看ス、〔按〕ハ、○凡、是等ノ事ニ係レル法ヲ示令シ、及之ヲ保護スル等ノ、〔按〕ハ、國家殊ニ之ヲ掌ルヘク、又是等ノ事ヲシテ倫理ニ協ヒ、神道ニ合セシムル等ノ、〔按〕ハ、教會殊ニ之ヲ掌ルヘシ、

〔第九〕所謂國家ノ改正權利〔按〕國家自己ノ權ヲ以テ、〔按〕教會ノ改正ヲ謀ル云ス、ナル者アリ、而テ之ヲ或ハ國家ノ監督權



利ト相合スヘント云ヒ、或ハ相分ツヘント云フ  
 ノ説アリ、此語ハ元來第十六世期教會改正ノ時  
 ニ始テ起リ、而テ殊ニ波羅特士且ノ黨派國家ノ  
 為ニ謀リテ、國家ニ教會改正ノ大權ヲ委子タリ、  
 蓋波羅特士且派國家ノ權カヲ假リテ、舊派〔按加  
持力〕  
 派ヲニ抗抵シ、以テ教會改正ヲ遂ケント欲タレ  
 ハナリ、加之當時加特力派ニ拘泥セル各國ト雖  
 亦此ノ如キ權利〔按〕改正權ヲ握リタリ、但波羅特  
 士且國ノ權利ニ比スレハ、大ニ限制セラレ、所  
 アリキ、○加特力國及波羅特士且國共ニ唯教會

自己ノ暴行ヲ放棄セス、自ラ改正ヲ謀ラサル時  
 ニ於テノミ、國家教會ニ代ハリテ、改正ノ權利ヲ  
 施行スルヲ以テ當然ト為シタリ、然ルニ後世國  
 家ノ專權ヲ貴フノ論盛ナルニ至ルニ及ヒ、國家  
 ノ非常權ナル此改正權利ヲ以テ、遂ニ國家ノ當  
 然施行スヘキ常權ノ如クナシ、而テ國家ハ必此  
 大權ヲ以テ、教會ヲ制馭スヘキ者ト為サント欲  
 スルニ至レリ、

真誠ノ改正權利ハ、元來教會ノ掌握スヘキ者ナ  
 リ、故ニ教會ノ改正ニ就テハ、教會ノ權國家ノ權



ヨリ更ニ強大ナルヘキヲ固ヨリ當然ナリ、凡、真  
 誠ノ改正權利ト称スル者ニ二種アリ、其一ヲ改  
 正ノ陰權利及陰義務トス、即、時勢ノ變遷ニ由テ  
 生シタル教會ノ弊害、或ハ其暴戾ナル處分等ヲ  
 改正スルヲ云フ、其二ヲ改正ノ陽權利トス、即、時  
 勢開明上進ノ度ニ隨テ、更ニ教會ノ完全具備ヲ  
 求ムルヲ云フナリ、(按蓋ニ種共ニ必、先、教會  
 自ラ掌ルヘキ所ナリ、)○然  
 ルニ國家ハ唯此改正ヲ擁護幫助スルノ權アル  
 ノミ、蓋、國家ノ之ヲ擁護幫助スルヤ、決シテ自ラ  
 邦土教會ノ門徒トナリテ之ヲ為スニアラス、若

教會ノ風俗良善ヲ失フコトアルキハ、遂ニ國家ノ  
 風俗モ亦敗壞スルニ至ランコトヲ恐ル、ト、及、國  
 家ハ諸會社若暴戾ノ處分アルキハ、則、固ヨリ之  
 ヲ防制スルノ權ヲ握レハナリ、凡、教會若熟眠ス  
 レハ、國家ハ必、之ヲ醒起シ、教會若沈没スレハ、國  
 家ハ必、之ヲ扶起セサル可ラス、國家敢テ教會ヲ  
 逐フテ其地位ヲ奪フカ如キハ、決シテ許ス所ニ  
 アラスト雖、其力ノ及フヘキ限、ハ、專ラ正善公直  
 ノ權柄ヲ以テ教會ヲ匡救スルヲ要ス、



長川新吾 校

國法汎論卷之九中終



